

1098
79

天保壬辰季秋新鑄



天保壬辰季秋新鑄

病家須知

合刻 聖婆必研

全部 八册 擇善居藏板

序
 病家須知成。偶有客謂曰。
 此書首論攝養。弗可廢。療
 藥弗可苟之事。而極。時
 豎之病。其言固當矣。或恐

序



精羊



世之囂者。不深索其意。趣而遽以子為術。已抑異之。徒歎曰。吁。予何傷焉。惟方今昇平二百餘載。輕佻浮靡之風。漸扇。延及我伎。

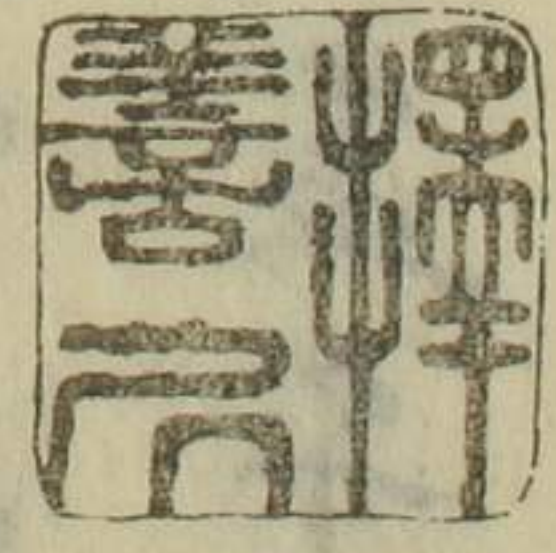
競尚名利。便給求售。其術之短陋。恬莫之羞。斯道之陵夷。不可勝言也。最慨庸人居恒。不為謹其動息。節其嗜欲。而全以歸之。一旦

病發。乃復委之時。整之手。
容彼巧說。甘其飽辭。到死
終不顧。何況望其為孝子
慈孫乎。予登業刀圭。微試
攝養。弗可廢。瘡藥。弗可苟

之事。每舉以諭病家。此編
所述。亦其餘論也。孟子有
言。莫非命也。順受其正。盡
其道。死者。正命也。極。桎。死
者。非正命也。予豈銜已抑



異之為哉。特痛夫非正命
而死者也。客唯之而退。乃
弁此數語以為序。天保壬
辰季秋。革谿道人



病家須知卷之一

大凡病ハ皆自爲る孽小あらざるものなり。氣候の變小行る
病より。傷寒。疫癘。瘧痢。痘瘡。麻疹の類小いたるまじも。避く避
らざるをあらば。恆く癰瘡。肥前瘡。赤との連染やをれ。食
傷。霍亂の攝養あり。元より發過飲多房の病とある類小於て
をや。のの假寐の感冒。酒食勞碌の身を害と。人ごとくに知ざ
る小もあらば。時疫。痘麻の類小至るも。避得ざるものとか
も。又輩今の世の鑿家小も多し。况其道小あらぬ人の意注ぬ
る宜あるととどと覺るの故小。今を去らの爲小。未病もの小
疾の避べらざるもの。を此の理を知し。既病もの小。其



處置の宜を得せしめんと思こ、その止むべく已か拙とも
 顧び、おもひ出るまゝ、を述べ、遂に編の書と成ぬ。もいふを
 を讀ん人其好悪小偏心ををて、看過再四作者の苦心を知
 ことあらば、おまゝ予の衆人小望ところあり。

第一之巻小る養生の心得より、食事、寤寐、坐卧、呼吸、心意の五
 の調不調より、健小もあり病も發ことと論し、妄小藥を用る
 害と擧病ありと鑿を招藥と乞小もその意得あることを示
 次小一切の病の傳染を道理を述べ、終小看病人の心得小三
 等ありと、その萌おき小ふせき、初發小治し、險重小心をつく
 一。死期小至まゝのことと及病のため小禱をる輩の心得と辯

志く病家の便ととも。

第二の巻小る食物能毒の親驗より、此方小獸肉を禁むる理
 を述べ、大約病者小與べぬ穀肉果菜の宜忌及病ととの飲食小
 任る治むること代記、尾小藥の性効を臆料小謬認ことの大
 要を論し、俗家の心得ととも。

第三の巻小る小兒を養育べき用意より、母の自身乳を喫む
 べき理と、乳小より其兒の氣質を轉ことあることを述自
 乳養ことのためぬもの、乳媪を撰小その計較あるべぬと
 と代辯し、乳媪の攝養、初生小乳を用ること、乳乏少小ありた
 ると死のこと、初生の涎尿の辯吐乳の尤恐べき證あるまこと

を説^{トキサレ}衝逆^{コミ}を救^スべき手術^{モカ}及用藥^{トク}小こ、ろえあると述^{ノベ}小兒^{コドモ}の病^{ヤマヒ}多^シく父母^{チハ}の遺毒^{タイトク}小因^{ヨル}ことを明^{アキラ}小^{ツク}俗小兒^{コドモ}の病^{ヤマヒ}小蟲^{ムシ}といふことある辯^{ベン}と畧^{リョク}小舉^{コトモ}。終^{オハリ}小痘疹^{ハツサウノドク}毒の由來^{ユライ}と詳^{ツマビカ}小^{ツク}痘^{ハツサウ}兒看護^{コカニカク}の致意^{コハロエオモヒヤテイモ}及水痘^{アヲマシ}の大要^{オホマシ}まぐと載^{ノセ}たり。

第四の卷小^コ婦人^フ平素^{ヘイセイ}の裁量^{サイリョウ}の謬^{アレイキ}執^{シツ}より多^シく持病^{ヂヒヤリ}といふもの、發^{オウル}ことを論^{ロン}。懷妊^{クワイニシ}の保護^{テアテ}小背^{コセ}あることとのべ。鎮帶^{チンタイ}産椅^{サンキ}の利害^{リヤク}と説^{トキク}懷妊^{クワイニシ}中の疾^{ヤマヒ}。妊癩^{ニシヤマヒ}瘰癧^{レツリヤマヒ}小便^{コシヤウ}通^{ツウ}せざる類^{ルシ}俗家^{ソウカ}小^コも救^スるべしことと。會得^{エトク}易^{ヤシキ}やう小圖^{コヅ}小見^{コミ}くことを載^{ノセ}催生藥^{ハヤメクスリ}のことより臨産^{リンザン}のこと、ろえ産後^{サンゴ}の所置^{テアテ}眩運^{ケンウン}崩漏^{クワウ}胞^{ホウ}衣下^{モリオリ}さるもの、こと惣^{スベ}て俗家^{ソウカ}のため小^コあるを免^メれことと略^{リョク}

小記^{コキ}坐^イ婆^ハ必^{カナラ}研^{ケン}と參考^{ヒョウコ}べきやう小^コたり。

第五の卷小^コ。黴毒^{カサ}肥前瘡^{ヒゼンサウ}の毒^{ドク}の異邦^{イホウ}より傳來^{ツタヘ}する所以^{ソノケ}と論^{ロン}して。避^{ヨク}べきこと、ろえを述^{ノベ}既^{スデ}小病^{ヤマヒ}たるものも其初^{ソノハジメ}小慮^{コロ}へ毒^{ドク}も蔓延^{ハビコル}ことあく治^チいやを免^メれ道理^{ワケ}を明^{アキラ}小^コ。變^{ヘン}トく諸病^{シヨヤマヒ}と成^{ナル}小至^{コチ}ても。醫師^{イシヤ}も誤認^{ミソコナヒ}く治法^{レウケクサフ}を得^エたきことと。婦^メ小^コよ里^リくあはせと病^{ヤマヒ}もの廢殘^{ヘンザン}とあることをも詳^{ツマビカ}小^コ。陰癰^{インオウ}のこと并^{ナヒ}小灸^{コキウ}の經驗^{コノコシ}と載^{ノセ}次^{ツギ}小傷寒^{コキヤウカン}時疫^{シエキ}感冒^{カンボウ}の辯^{ベン}古今^{コキン}の名^ナと異^{コト}小^コとること。陰證^{インシヨウ}陽證^{ヨウシヨウ}の誤認^{アヤマリ}醫俗^{イセキヤク}の濫補^{ランボ}用藥^{ヨウヤク}の差失^{サシ}病證^{ヤマヒシヨウ}の難^{オモシキ}易治^{コノケチ}不治^{フナゲ}の候^{シゴウ}を大槩^{オホシ}小示^{コシ}惣^{スベ}て熱^{ネツ}ある病者^{ヤマヒヤ}の所置^{テアテ}看護^{カンガク}の用意^{ヨウイ}を述^{ノベ}或^シも天地^{テンチ}萬物^{マンブツ}一切^{サイ}の條理^{ジョウリ}もことごとく對法^{ツツアヒ}小^コあるこ

この大略を論病苦治術も亦自然の道小順べれものあることと明小一專愚俗の疑惑少のらめんことを欲む。そまよ
里痢病初發の治法毒劇もの、こと并小古昔より其病因を
誤認く。中夏啞蘭の説の今小害あることを辯析し。病家の意
得小あるべきこと成示したり。はま今行る、脚氣の千金方
外臺秘要あと、いふ書小載たるものこと其別あるの故小。
古來より用來し脚痺の藥劑小くも成効あるもの多。一應を
愈ぶごとく見ゆるも。たゞ氣候小從く發歇あるまぐ小く。歳
を経く治しむたぐ。遂小ち變じく諸病とある小至く猶悟も
のあく。その初より治術小差別あることを知ざることと辯

トて俗家の教と云。

第六の巻小も。傷食霍亂の心得より。一切毒小中たるもの。其
急卒劇甚ものち。醫を招問もあく怨小命を隕ことあまは。平
素小記得べきことごもを一々小説明し。次小卒暴小發る病
の類。沈睡。急非。緩非。僵厥昏冒。眩運睡驚癲癇。狂氣。肩項卒痺。衄
血。吐血。脱肛。蟲病。汗。輻。船。湯火傷。咽。梗。犬咬傷。蛇。蟲咬傷。鼠咬傷
小いたるまぐも。皆其初發小速治を施バ救得らるべし術と。
俗家の了解易やう直捷小示たり。その中犬咬傷ごとさる尤
輕易證あると。醫俗とも其知見あれゆゑ小大患小到しむる
と云嘆く。多年の自驗を記く遺ことあし。次小舉るとある

金創擲擲の心得。正骨の術のごときも。武家非常の用意小も
あることある。専門小あら秘ごも。少壯より諸家の秘訣を
受得たるものを。簡約小其要を記たるまごあり。
上小列るころの數目。その次序錯置ごともある。もと思
いのほるま、を記たる書ある。前後の差別小ふるは意旨の
ある小もあらば。故小此小洩せしを彼小記く。漏落もまご
多。こ、を以て前後通覽て參攷する小あら秘ご。解し得べら
ざるごころあるべし。讀者その支離あるを晒ごある。ご。
第七の巻を。坐婆必研の上冊あり。六巻ももと俗家のため小
ご編たるふるあら秘ご。末畧ある小も坐婆小も多。難産

小く死ぬる婦人もまご多あるべし。故小此小述る意を得ば。
俗家ありごも人を救ごあるべきあり。此編初小子藏胞衣の
形状より。懷妊胎位のごを説妊娠を知ご。鎮帯産椅の利害。
惣て坐婆小論たごごもごを詳小載て。ごより胎の倚側
ご整備べき手術探宮のご。坐草分娩がよび胞衣を下ごべ
き秘術五條を記載臨産の用意まごを詳小記惣て坐婆の會
得し易きやうご旨ごしたるものあり。
第八の巻を。坐婆必研の下冊あり。此ふる産前後の病惡阻。小
便閉瘕病妊癰崩漏眩暈の類を救べき術の病家須知小載て
俗家の施やごごものる彼小讓此小の專坐婆小教論んこと

を要カキこするユエ故ソノ小ワザ其手術の簡約ツマヤカ小ヒト行易ものを拾トキて説トキ著アラスレ彼と此と參互講究カンガヘ其術全備ソノことを得ユせしむコノ此編の要カキこするところ難産の頭を露横産の先手を挺脚を出或る背を採得ていふ小も爲ナレたれ及オモ胎の古今の説の誤と辯ベンいふある難理の産ありともいさ、るも傷損キスツクルことをクとらくクマレと分免しむべき秘訣古今未曾有の術の志ワザも行やとく明易アキラカきことをとく記説の盡ツクサざるものふも圖を以て明アキラカふも其原意を廣天下の收生媪トリアゲババの傳ツタヘ世間産母生兒の横天を救ススしめんムコとむることムコと旨ムコこしたるレヨこの書レヨいふとくサイノセ一切載て遺ムスことなし。

通計八卷の目錄其提要スベテのくのごとヒヤカ病家須知カコロエガもと蒼卒ニハカ小成ナリたる書レヨをモレ洩イヒタることも辭短イヒタことも多オホクまカレ往コレ往各謬ル慮コレも有アリぬべけゴとヒロヒ後日アツメ小撫拾ツクて續編ヘンとむることもあるべし坐婆必研トリアゲババ小いトモカラとカるル小ホ別行シレをカるル思オモヒふ筆記カキツケかきトリアゲしトモカラの收生媪カの輩ルが如此籍ありと知シレよカもカあカく又モトメ求ヨメく讀ヨメんと思カふものも稀マレあるべくカさらカぶカだカ小我慢ガマン偏執ヘンシツの婦女ヨメの常態モトメあるカバ邂逅イテ小病家カ小相カ遇カとカるカも教諭コノエべき方便テダテもあらカば假令タトヘ偶教オトコを受ウケものあカるカも天下ヒロキの廣カ予カふ一人ヒトの力チカラの及オモことカふカあらカばカ孕婦ハラミある家カをカるカ招マシたる坐婆トリアゲババ小如此書ありと告知ツケしカるカまカと文字モジを知シラぬ輩ヤカラ小を讀ヨミ

きのせもしく誘ふ。其説を聴く開悟をることありもさべし。もしく然ん小らたゞ小其家の幸とあるのミあらば。世間孕婦産兒の禍を免しむることもはと鮮あらト云。おもひ立ぬる老婆心よ。遂小ハこの後ふ合て刊行せる其志を助るものあらんこと。汝世小普庶幾あり。

時天保二辛卯歲秋九月廿二日擇善居士主人自誌

攝生の意得と説

古昔の人の語小。人情は後ハ貧く。力く儉をさば富といひし。もと身を修家を保の緊要とをる所小し。攝生の道もまた此より外あらば。故いふ小と云と。朝夕の作業怠惰ね。身體の

運化も快爽遊居あけきハ厚養辛食の妨害もあらば。諺小も言ごとく。流水は腐む。戸樞ハ蟻は。みか動也。意あり。か、さハ無病小しく後の福を祈小ハ。力と儉との二を行小志くらあし。此二を守ん小ら畏る小しくことあるべあらば。畏るとも天命と畏あり。萬の事畏慎意あまハ。危ことも險のらば。過失あるべきやうもあし。酒を過ハ體の害と爲こと。汝畏美味小飽ハ腸胃の化熟遲澁ここと畏。色慾を肆小せば精氣の衰耗んことと畏。こら小耽く恒産小疎からハ。家の敗喪んことと畏。衆多の錢財と費ハ。産の傾覆んことと畏。おくかりゆけハ貪婪の念窮極ことと。他の富と羨。人の金錢と債く購こともあらぬ。故小。世の

誹謗を致激憤を來ことを畏。子孫も己の禪行と學をば。後の衰
凶を招ことと畏。如此所行小生を誤。病軀とあるのこの。天の
譴君父の責。世間の非評と一身小取。漸次小衰敗。遂小體を
毀家と滅小至んこと。のへをぐも畏。此こと小あらばや。の、
道理を審辨。深畏慎く儉と力を護持。身小稟得て
定る天祿といふものあり。とをを儉番やう小とる計較。攝生
の第一あり。世間小常の食ととるものと。此ハ性あり。彼人小
益ありと。病もあき小喫慣たる品と嚴禁とること小あらば
儉約小心と安どる人。常の食ハ薄味小。事足偶芳羞と啖を
殊小耳美お。平素耳醜小飽足ものより。大小身體の滋

養とあるあり。家道小怠むを努力もの。餘一日の閑を得て其嗜好
小心意を娛ると。此小。の昼夜歡樂と極ものより。情意と
暢身體の益とあること。浩大あり。假令ハ外襲邪毒と城と圍敵
なし。攝養小背く。發病と麾下小。吾小倍ものあり。この叛心
のもの。城中小在と。き小。敵小内應。城を陷る。恐べたこと
あり。何ある邪毒の敵の外と圍ものありとも。保守嚴く。城中心
を一致小。米粟礮矢小。缺乏のら。薬の援兵との圖小。あ
ら。内外より。衰と敵と却んこと。何の勞もあるべのら。古の
善戦もの。勝や。き。勝といへり。その未萌小。防禍の來ざる
小供と爲と。謀の優もの。小入の初と強と。慾と忍小。あ

至^{ヨク}慾^{ヨク}を忍^{コラ}ら爲^{ナレ}たきやうを也^{ナレ}。慣^{ナレ}く常^{ツチ}をかき^{ナレ}バ至^{イタ}く易^{ヤシキ}かと
あり。後^{ノチ}の害^{ガイ}を畏^{オソレ}る心^{ココロ}存^アべ。微^{オホ}物^{モノ}もその程^{アノリキ}量^{リキ}を較^{ハカ}り^{ナレ}恣^{ホシ}小^コ喫^クむ。况^{マシ}
女^メ色^{シキ}と飲^サ酒^ケとや。惣^{スベ}くのこと其^{ソノ}初^{ハジメ}小^コ畏^{オソレ}慎^{ツシム}とせ^{ナレ}小^コハ。過^{アヤ}失^{マシ}あるこ
と更^サ小^コあるべ^ラらざ。莫^{バク}大^{ダイ}の禍^{ワガヒ}も。須^ス臈^{ラク}の忍^シざる小^コありと^{ナレ}。こ
をい^イふあり。世^ヨ小^コ吾^{ワレ}を養^{マシ}生^シのこと小^コ疎^メ脱^ダか^{ナレ}とい^イふ人^{ヒト}も。真^{マコト}
小^コ知^チたるも少^{オシ}あり。烏^カ喙^ヅの状^{カタチ}も青^イ芋^モ小^コ類^{ルイ}似^ニたきども毒^{ドク}あるも
の^ノとあるが故^{ユエ}小^コ強^{キヨク}ものあ^アり^{ナレ}も敢^{アヘ}て啖^{クハ}む。五^イ穀^{コク}ハ體^{カラダ}と滋^シ養^{ヤウ}小^コ
缺^{カク}ま^{ナレ}れものと思^{オモ}べこと。求^{モト}く食^シ小^コらあ^アら^{ナレ}ばや。こ^コも烏^カ頭^{ダウ}と五^イ
穀^{コク}とを真^{マコト}小^コ知^チバあり。人^{ヒト}よく善^{ゼン}惡^{アク}の分^{ワキ}と知^チこと。烏^カ頭^{ダウ}と五^イ穀^{コク}と
の^ノごとく^{トク}から^ラバ。過^{アヤ}失^{マシ}あるは^ハト^トけ^ケき^キども。真^{マコト}小^コ知^チ人^{ヒト}少^{オシ}か^カき^キバ。小^コ

の慾^{ヨク}をも忍^{コラ}得^エべ。遂^{ツヒ}小^コ害^{ガイ}を招^{マシ}く。悔^{クハ}こも及^カぬ禍^{ワガヒ}害^{ガイ}小^コ懼^{オソレ}ハ愚^{オロカ}小^コ
もは^ハ哀^{アハレ}小^コ嘆^{カナシキ}こと小^コあ^アら^{ナレ}むや。今^{イマ}と^ト去^サら^{ナレ}の弊^ヒを救^スん^{ナレ}爲^{タメ}小^コ真^{マコト}
の攝^{ヤウ}生^{シヤウ}の梗^{アハ}槩^{カエ}を不^フ説^{トキ}論^{ロン}こと左^サの^ノごと^ト。一^{イチ}。
夫人^{フじん}の富^フ貴^キを慕^{シタラ}も。書^{シヨ}を讀^{ヨミ}道^{ミチ}を明^{アキラ}んと思^{オモ}も。英^{エイ}雄^{ユウ}豪^{ゴウ}傑^{ケツ}の大^{ダイ}業^{ゲツ}と
成^{セイ}就^{ジユ}せん^{ナレ}と欲^{ホカフ}も。軀^ミ小^コ病^{ヤマヒ}苦^クあ^アり^{ナレ}も。其^{ソノ}志^シを果^{トク}こと能^タべ。歡^{タシ}樂^{ラク}の
る^ルべき^{ベキ}こと^トも娛^{タシ}ら^ラば。故^{ユエ}小^コ病^{ヤマヒ}苦^クある^ル軀^ミ小^コハ。富^フ貴^キ榮^{エイ}利^リも才^{サイ}
徳^{トク}ある^ルも小^コハ。の^ノへ^ヘせん。人^{ヒト}も唯^{タダ}壯^{ソウ}健^{ケン}ある^ルこと^ト世^ヨ小^コ存^{ゾウ}る^ル第^{ダイ}一^{イチ}
の福^{サイヒ}を^ヲ也^{ナレ}。其^{ソノ}志^シあ^アらん^{ナレ}もの^ノ先^{マツ}之^{コノ}を^ヲ知^チん^{ナレ}こと^トを庶^{コヒ}幾^キべ^シ。大^{オホ}
凡^{ヨソ}身^{カラダ}體^{タマ}ハ飲^{イン}食^{シヨク}の力^{チカラ}小^コ託^{ヨリ}く^ク生^{イキ}こと^ト活^イも^ノあ^アき^キハ。先^{マツ}飲^{イン}食^{シヨク}の攝^{ヤウ}養^{ヤウ}
最^{カン}要^{ニヤウ}也^{ナレ}。食^{シヨク}も^ノ過^{スギ}て飽^アと^{ナレ}れ^ル。腸^{ハツ}胃^イ膨^{フク}脹^ク。消^{シヨウ}化^カ頑^{アン}鈍^ク。身^{カラダ}體^{タマ}漸^{シヤウ}小^コ弛^チ弱^{ジュク}

ゆたぐ。氣血の運行遲慢あり。腹中閉塞とあるできく。癥瘕を結
成精神鬱冒。坐臥安らば。大病の原由とある。其他麤硬粘稠。
肥膩物。惡臭ある物。及至酸。至鹹品。辛辣の過ものゝを。皆偏味
と稱て常小多喫べたもの小あらば。とを好く嗜喫バ。暗小其
毒の爲小身を損害らる。まゝ體の大熱したると此小寒冷物を
多食ハ。運輸の機關を阻て宿病と動ことあり。體寒とさ小至熱
品と喫もまゝとあるあり。又平素温飲熱食を好ものハ。齒牙の早
損ざるのゝあらば。大小身の害とあることあり。さらばとく冷
物のゝ小てら。身の滋養小缺ことあはバ。常の食々寒温必適其
中やう小用意べし。况性質とも辨は喫慣ざるものと。珍羞あり

とく喜で食こと。巨害あることあり。口腹の爲小身體を損害。一
生を破過。世の笑柄とあること。不孝不忠とさふり大なる
あ。利害を辨ど。く食を貪ハ。禽獸の所作あり。禽獸をら已小
害あるものも自然と退く喫バ。馬の野草と辨別。狗猫の食品を
嗅知を見くも察べし。人と生く禽獸小も劣たる行を愧さるら
い。小ぞや。酒々最偏味の甚其性猛烈物小く。嚴寒の候小も
氷を。之を過喫ハ益少害多。體小害あるのみあらば。人の家を以
一國を傾るも。十小八九酒の害あり。慎戒さるべけんや。飲食
を節省々格物の門小して。身を修身を保の尤先むる所あるハ。
必放縱小をることある。忍ぶ慾を制さるべたことあり。

次ツキ小チホ眠イシムを制オリべし。喜オリ眠ニシムハ急オコタリ情オコタリの心ココロより發オスルこまより一ヒト諸シヨビヤク病ヤクをシヨク生モトむる因オホクとある。多オホク眠ニシムもの多シヨク精神セイシン漸シテ小チホ昏クラク闇クラクあり。善セン心シン沉ウレク没ウレクありゆくものあり。畏オシく劫フカク愁イシムべし。然シカとて過アツク小チホ睡シムを強ヒキく忍コシるるあり。適ヨキ中ホト小チホ規キ則マリを定ツケて過クワ不フ足ソクあるべし。冬フユの夜ヨ二ニ時トキ或ヒ二ニ時トキ半ナウ夏ナツと四ヨト時トキを其ソノ度ホドとせ。夜ヨルハ早ハヤク寢ニシ朝アサ日ヒの出デぬ前マ小チホ起オキるよし。昼ヒル寢ニシこと尤モトよろし。飽ライ食シクハ眠ニシを引ヒクの媒オホクとある。喫ク直ス小チホ枕マシラ小チホ着ツクこと尤モト身ミ小チホ害ガイあり。酒サケ小チホ醉エヒく卧フスハ壽イチと短ミダの理リあり。故ユエ小チホもつとも戒イマレムべきあり。その次ツキ小チホ先マツ體カラダ容カタチと正タシクしく。後ノチ小チホ息イキを調ト和ノフべし。體カラダを正タシクむる小チホハ。坐マスル小チホ端マツ直スあると要ヨレとせ。脊セ骨ボネの前マへ曲カムるあり。後ノチへ聳ソルも良ヨシき

らむ。頭カシラハ平ヨウ正ス小チホ鼻ハナと臍ハクとの準ヨリ相タイ對タイし。偏カヨラむ斜カマむ仰ウカむ伏フカむ。頭カシラを昂ノビたるあり。肩カタハ低ヒクたるあり。急イカらあし。眼メハ定タシて。物モノを視ミルときハ頭カシラととも小チホ顧カカべし。兩リ手テも牽ヒキ來ヨセる身ミ小チホ近チカク膝ヒザ上ウヘ小チホ安オクべし。腋アキ下シタ小チホ鷄トウ卵ゴ一個ヒトツブを容イシ程ホド小チホありたるをよしとせ。惣オホての用ヨウ意イハ。腰コシを以モツて小チホ腹ハラを前マへ推オスやう小チホをさば。臍ハク下シタ小チホ力チカラ入イる下シタ腹ハラ小チホ氣キ充ハリ實ミチ息イキも臍ハク下シタ小チホ至トキく。胸ムネ肋ハラ心ココロ下シタ小チホ支サシものなく。週サマ身レニの力チカラ臍ハク下シタ腰コシ膠カウ小チホ在アルことをか不フ申シべし。漸シテ小チホ習シ慣ナくの後ノチもあむち小チホ力チカラを也イレ用ヨウむ。自シ然ゼン小チホかく為ナ得ケルやう小チホありく息イキの喉ノドを出入イデを自オシと知チざるやう小チホある也イレ。吸イキ呼キる鼻ハナより出イデる臍ハク下シタ小チホ納イリまゝ臍ハク下シタより出イデる鼻ハナへ泄モルる。後ノチ小チホハ耳ミミよりも發タチ騰ケ理リよりも出イデる。長チカク壽シユの

人の耳ミミ小毫毛ホシケの生ハユルら。吸呼調イキトシヒく精神ココロの檢束符驗オカマレルシルレ也。口クチら一切閉サイトクたるがよし。行住坐卧タチオキスレとも常ツチ小上下タカヒの脣スベ合アヒたるをよしと云。痲疾諸症カンレヨウサラクシヤカタセコハリ。肩背強急ノボセ。上衝眩運ムチハラツカヘ。胸腹支慙キノフサギ。心氣鬱結シヤクヒンキハラヒキツリ。癥疝拘攣オヨビラン。及婦人子藏諸病等ナリナカタンワラヒタビ。此術コノビニウを持モヒく其患漸小治ソノウヒシヤクべし。坐カマく行オチテことこのみ思オモフべのらび。行住坐卧タチオキスレとも小この意ココロチを用ヨウくよし。歩アユ小る手テを體ミ小牽來ヒキツケく下タレ小垂ユビ四指シユビ小力チカラをこめく。拇指オヤユビを掌テヒラキ中ナカ小握ニギやう小を色シキハ。自然シゼンと臍下ホツノシタ小氣充實キミチきたり。腰膝コレノカタ小力入チカラく。脚歩輕利ソノアサキカククナリて躓ツマツクことあく。習慣止ナラヒテヤスことあき小至イタレハ。運歩アユミの機會ハタラキハ腰膝間コレトミタマヒタ小あまマく。脚小あらアヒさることを自覺サトルべし。寢イヌル小る右ミダを下シタ小く右の脚アヒを展ハし。左ヒダを上タカ小く左足ヒダを曲カマ手テを牽來ヒキヨセく腿モのヒとへ垂タレ小

腹ハラを前マヘのヒたへ張出ハリイダし。足心アレンカラ小コロ心を至イタラしめ。足アヒの大指オヤユビを運轉ウツカスこと七八度ド。其中ソノウチ他ホカの念慮コ、ロを發オコスことあのま。他タリ念チンもイ發オコハ咒文ジュンまたる佛名題目ブツミヤチダイモク小くも心中ココロノウチ誦トクあら睡ネもよし。或アヒる寢イヌる小先マツ仰アガく兩脚リヤウアヒを伸ノビ。兩手リヤウテを以モく胸肋ムチアハラより小腹シタハラ小至イタレまる平心ココロニツカ小撫摩オテサスルこと數十遍スベシ。を色シキより腰臑コレノツツより髀モの方カタへあるべし。さけ兩手リヤウテを伸ノビてまる撫摩オテサスルこと數十遍スベシ。後足ノチアヒの拇指オヤユビを徐々ソコソコと動轉ウツカスべし。惣スベて胸肋ムチアハラを按オスふハ輕カクク鳩尾モツオチより臍旁ホツノアタリまる中ナカ小シタハラへ至イタリてる重オモクそのヒを撫摩オテサスル意ココロニツカ向ムカヒハ。假令タトヘハ畫師エカキの五彩ゴレキを設イタぶことく。沸湯ユイを盛イたる器ウツバを持モツぶことく。いの小も靜シヅカ小踈脱ソツダツあらぬをよし。さを。其後ソノノチ右ミダを下シタ小く腹ハラを充張ハリて睡ネあり。この法ホフもまるよし

朝起アサオキル小ニカ卒トコ臥床イデを出イデ先オホ端坐スツリ身カラダ體タビニ并シテ諸支節ユリカスを挺動ユリカスこ
と數遍スヘンの後ノチ兩手掌リヤウテと膝上ヒザノウヘ小安オキさく口ヒラキを開ユルて綿ユル々ユルと濁氣イキを吐ハク
こと三四遍サンシウヘンどきより口トクを閉トクる鼻ハナより清氣イキを納イルて臍下ホソノシタ小至イタら
しむることハはス十數遍スヘンふハく放解ヤメ徐々ソラクと床トコを離ハナるやうハふハと
ること殊コトふハ。癩症カンシヨウ癩瘻シヤクモチ或アルヒ婦人ランナの子藏病チカタンノワツラヒミナコノ皆モト此術モモリを護持アサユフ朝夕オホヒ
行オモヒく歌ヤマさクさク。藥クスリを服ノマむハく歳トシを經ヘたる病ヤセを治イサスべし。世ヨ小難治ナンヂ
とまる癩病チカタン癩瘻シヤクモチ及一切廢殘病コケレヤセもまハこの法ハフ小從シヨクく間効マヒと見ミ
ものあり。小兒ニの搐搦ヒクウキ癩疾シヤクマツの類ルシも此意ココロを擴充オホヒロメて藥劑クスリを退ヤメと
と按腹アンブクの法ホフと授オシて愈イユたるハとあり。とべく持病ヂヒヤウあるもの、寢イダス
とハ小ト最精神トリアケと平定オチツクく雜慮オモヒを放臍下ヤメ小氣キの充實ハルやうハし

て眠ネムとハ小ト其効尋常ソノヒレシの藥クスリ小優オホこととほし。此ココ小演コノるハその
梗槩アキラカあり。伎藝勤仕ゲイビクニウツトメムキのあひハとハ。飲食應接ノミクシヒトマシカのハまハふハ。この旨趣コノサト
と離ハナむ。修習シュウシツて止ヤメさハ。威儀キギも自嚴整ゼント身體カラダも壯健スウヤカふハるハのハ
の。智慮チリョも漸小増發シヤウマシて勇氣ユウキも出ぬイデべし。こと形カタチより心ココロを調和トウワルる
法ホフあり。
こと小續コトく心ココロを調トウることと學マナブべし。こと放散氣ハカチタルキを收ユメる身内ハラウチ小
充實ミタしめ。心意ココロ和靜安定ニヨクモチニツタリオナツキ。妄ミダラ小外物モノの爲タメ小昧クラマさハ。轉倒テンドウするこ
とあるらハしめんハ。爲タメあり。愆スベく人の體カラダも上部カミ輕清カヨヤカ。下部シモ寬裕ニウタリト
あるハ。必壯健カナシクニヨクモチ小ハ病ヤセなく。假令タトヘ外襲ソトヨリ邪毒シヤドクの侵劫フツラヒありとも。多オホク
ら大患オホイハヤ小至イタどして平治ナホルべし。分ハツあるハと。平素ヘイゼイこの心ココロの攝録ヨサマリの

たく轉倒テトウをる小コよりく漸シヤク小胸腹ムチハチを上ノのたへ牽引ヒキアゲく諸藏サウゾウの
位置チイありくあり癥瘕シヤクを結成コレラ拘急ヒキツリを作發オコシ經脈ケイマク上部ウヘノカタ小逆流易サカヅリヤスキの
故ユエ小藥石ケネリハリの力の及ツざる小もいたるあり抑ソムふの心を轉倒テトウせし
むる其起原ソノオコリもその貪欲ムサボリの念相續ココロアイヌイぐ止ヤマむ求モトむ小苦クシも得ウルて死シ小
怖オシレ失シへへ瞋イカリ一切心サイを惱オキむる小あらざるものなく日ヒと逐年ネンネン
を經フル小從シタカヒく昏闇マツクラ小ありゆき調和トウハさる小至タる漸シヤク小飲食シヨクモクの消化コナレ
と礙サマデ氣血キケツの運輸ドク遲慢チマンある故ユエ小吾ワガ一身イツシンと主宰ソウザイとあるの元氣ゲンキ
其職シヨクと失ウシヒ内の守固モリカタあらど外ソトを防コソ力微リキありく外襲ゲワイ邪毒セヤとの隙ヒマ
と伺ウカヒやとヒカノミ加之ツク慄熱ハラタチ噴淚クナクシ執拗シツアツ踈放ソウハツ相續アイヌイく斷タざる小至タる此ココ
と已オシの性格セイカクありと自裁ジサイ量リヤウて放肆ホシイある故ユエ小痼癖コリカク失治シツヂ疾病ヤツヒ其

根ネを固カタくいある治術チジュツも効キを奏ソウことなき小至タ也予今世間コノヨノイマノヨノ
小所謂コトイハル癩證リヤクシヤウ癥瘕シヤク及一切廢殘病イツケツレヤマヒの其所由ソノオコリを詳シヤク小をることあり
ものこの心の調和トウハさるより藥治クスリの効キありものあることを的タ
實シヤク小知シルの故ユエ小をさるの爲タメ小暫權シヤク小體タイと息イキとを調形トウカチより之を
治チむること人小教コトく多其効オホクソノキを得エまオム庸人婦女オムヒトヲシメをど小を歌ウタ
と誦トクく身體カラダを按摩ナツア法ホフを授オシく此ココを行オスく多年タシの病ヤツヒを愈イヤす藥クスリ
小優マシる驗ケンを得エるも是捷要便宜法コレハヤマハリシカタ小く其實ソノジツをいふとき
小體カラダといひ息イキといふも是より吾心ワカの外ウヘ表オシあること也假令タトヘ
ハ影カゲの形カタチ小從シタカヒひ響ヒキの聲コエ小應オウむるごとく相離アイハレべきもの小わ
らびこの心をだ小調得トウヘウレハ體タイと息イキとハ別ベツ小調トウることを用モトび

て自然小其則小協カチこともとよ王論ロンを心廣ヒロけよバ體胖タイナカあり
この古言フルコトもこの心の外物モノの爲小動ウゴカさよを寛裕ユルヤカあるよバ其内小
充實ミツルとあるの氣宇キウウの外オモテ表小形カタガも身體カラダの運爲ハタラクトリマシ動作自然小安恭ノビ
舒暢ヤカ小あり。容貌カタク嚴整シツク言行モノイヒ詳慎ツマヤカあるといふ旨アジ大オホのこ此小同コトく。
まの觀相師ケクシの傳ツタるを聽キク小。心小沈憂クワク望慮クワタクあるものも。頭前カシラ小垂シ
て眉間準頭マユノアヘ小闇昧クモリ色イロを現アラす。失意シギ坎壈カンランあるものも。背曲セマカく坐容マツリヤウ
正タシのらび其息胸イキムネより出イデく臍下ホクシタ空洞カラツボあるおぼこ。かくのごと
に相サウあるものも。性質キセツ依樣イザウ摸糊モコ一切果斷サイケツガンなく。も一病ヤヒをど
小罹カルヒキも多オホクる危篤アヤシキ小いたるあり。まの時小乘トキものも。面仰項長オモテアヘ肩
張背直ハリヒサ眼口光澤メクチヒカリあり。起坐タチカとも小穩重シトヤカ小。智慧チエふるにものも

眼光清爽メノヒカリ胸腹舒暢ハラノビヤカ小見ミゆるあり。かくのごとに相サウあるものも。
いのある危難キナン小逢アハことあてても屈撓クニムことかく忍耐コラヒ遂小禍ツギ
を轉テント福サイヒを得エ萬事成就マンジセウジをといふおごとき。愍スミく心裏ココロウラの所有エナマ
の外オモテ表小現アラハものを相イ知シルこと。醫家小所謂イカ四診イハユルの一イチ小望バカとい
ふものあるお。まの病ヤヒの色相イロアヤ小顯アラハる者モノを診知ウカシヒルの意相ココロノイハヒ似ニたり。お
く外候ソトウケの著イハヒきものあるよバ。假令タトヘ心内小邪慝ヨコレマを挾外サシヤク表ウラを愚慥リナキの
人ヒトにかもいせ。庸人オウジンを欺得オシキクるとも。十手ジュウテの指ササこころ畏オソべにのこ
あらび。達者タクシャらその眸子メザレを視ミても。その心裏ココロウラの正邪テイセを察サツをべし。
且カ己ミの心ココロの欺得オシキクべのらさることへ。試小獨居ヒトリニて他ヨリのこるめも
かく聽キクこともある小。吾心ワガココロ中何事ナニゴトをり思オモヒ何等ナニニを欲ホシムると省カフべし。

昔より傳ところの華陀の五禽の戲も、婆羅門の
 導引法も善のらざる小のあらはれども、婦女子が
 小も施のたれたとあり、今こゝ小擧こころへ
 歌を誦く身體を撫摩術よりくことごとく、死所作
 小もあらはれ、婦女子老人體衰たるものといへど
 も行やをく、効を見をたともまゝ優まり、その法
 ら所作ことごとくをへりてのち、肩へゆき、寝衣を
 着、心と志づり、小入、仰、小、肩と頭の間に
 ちるくことごとく、両手を身小着て下した也、両
 脚を伸て惣身小いさゝ、おも滞こころなく、たど
 へむ死たらんちかくや、かおもふやうある形、軀
 小あり、先口を開て、臍下より息を吐出と、七
 遍、小、口を閉眼をふさげ、心志づり、小、両手
 を以て胸脇より小、腹小いたるまゝと撫かろを
 小と、歌三七へんと吟る間ごとくと撫る、是第一術
 也、後、兩腿のつけ、小より腰のほひへ、のけ、内外
 を膝のわさへ、のへるく力といせ、と掌のどく
 と、小、ろまゝ、撫かろをこと、歌一七遍のあひ、こ
 也、第二術あり、をせより、両脚ををり、足の五指と
 ゆり、うごのひこと、歌一七遍のあひ、こ也、第三

第一術



両手とをへ
 たるあち小
 こころとむ
 べ

術あり、以上歌三十五遍、ちよくと誦、惣て、そのま
 たら、バ、そのま、小ま、さく、以前の、ご、こ、小、惣身
 と、ゆる、や、の、小、い、い、さ、の、も、を、り、た、る、こ、こ、ろ
 と、こ、か、り、た、る、こ、こ、ろ、を、う、ら、ら、め、く、鼻、より、息
 と、納、り、ち、よ、く、と、臍、下、小、い、た、ら、ら、む、る、こ、と、三、七
 遍、この、と、た、れ、小、ま、と、その、息、の、臍、下、小、い、さ、る、こ
 と、小、の、と、こ、ろ、を、も、ち、ひ、く、他、の、念、慮、を、と、ふ、ま、
 數、の、ご、と、く、小、息、を、い、る、た、び、ご、と、小、鼻、より、出
 して、口、を、一、切、閉、と、と、あ、る、べ、い、癡、癖、あ、る、も、の
 や、も、を、せ、は、こ、の、息、を、その、塊、あ、る、こ、こ、ろ、よ、支
 ら、せ、て、臍、下、小、い、さ、を、ご、と、こ、の、ふ、も、の、あ、せ、と
 も、日、と、の、さ、秘、つ、と、め、行、む、ま、は、必、臍、下、小、及、さ
 る、も、の、を、一、歌、の、萬、葉、集、か、出、た、る、甲、口、益、人、大、夫
 の、詠、た、る、い、は、を、ら、の、き、よ、と、う、さ、死、の、み、か、の、う
 ら、の、ゆ、さ、け、き、み、つ、も、の、も、ひ、も、あ、一、の、い、ふ、歌
 あり、この、句、中、小、も、の、か、も、ひ、を、一、の、い、ふ、こ、と、を
 小、つ、き、く、か、も、ひ、つ、く、く、る、小、か、よ、と、心、識、小、あ、づ
 る、病、自、餘、の、諸、般、も、三、因、あ、り、こ、の、い、へ、と、ま、づ
 る、も、の、た、も、ふ、より、識、神、か、の、つ、ら、耗、減、空、塞、て、も
 ろ、く、の、病、を、ひ、き、い、と、は、こ、と、を、せ、は、こ、の、歌、こ、と

第二術



頭と肩との
 くつろきか
 心を注ぐ見
 るべ

よき厭勝をらめとく。人小さづけ受持しむる小
 驗もまよ多し。かの明の龔廷賢が醫書小載たる
 道家の暮臥咒も。そのこゝろえらあるトこと也
 をへく咒文のこゝろの歌のおとく。彼西竺の陀
 羅尼とありへるも。韻響のあること。頌ひひこ
 く歌小かたト。ちを小よくその旨を得く此術を
 行ん小ハ。頌小もあは歌小もあは。人々の好樂小
 まのせてよし。此法をトめハ。痛證小く夜寝こと
 安らざるもの、ため小まうけし。その後こ
 色と婦人藏躁子藏學急。おふひ癢痕小く心下苦
 憑胸腹臍下小動悸ありて。眩暈頭痛常小發し。年
 をのさねて愈ざるもの。あるひハ長病體疲心氣
 乏少もの。まよハ留飲諸藥効をく年久しく惱も
 の。及疴の漸あるもの。腹痛腰痛の治しおたれ類
 小施て藥小優色効と得ることあり。あるひ
 ち妊胎胎動小も。胎倚側く腰脚學急起歩小惱も
 の。小もちちひく効あることあり。孕婦無病ある
 もの。といへども。その孕ことと知てののちハ。毎
 夜急なくこの法を行く。母子とも小大ある益あ
 ることなり。その意と得ざるののちハ。おのこく

第三術

大指とての
 ことくめたて
 左右一同小
 動をり



三術行終り
 息と敷る状

お作畧小く。いゝやう小も便宜小まのせくよろ
 しぬ也。どりとけむるし。よりこの旨趣をもちひ
 その人の機根小あさひて。痼證の治術小効を
 得。その氣質までとも轉せしめたること。擧ての
 ぞへおとく藥ともちふる小も大なる助となる
 ことあり。をへく臥寝安らば。睡て覺る、類ま
 さハ夜ごと小眠うね。あるひハ夢小人のおの色
 ところさんごをると見ておどるき。まよと死葬
 のことをやめみてゐるし。もしくも臥たる足
 を入小とらへらる、とやめみまよハ高ことろ
 より墮落とせくめさぬ。あるひハ入小逐とく過
 奔ゆめさめて。慙身小汗出ると慙く寝こと小こ
 ころの安らざるもの。皆痼證小屬もの小く。予
 おこの按摩の法と息を行なハ。必愈を。その身
 心平ふる色ハ。かゝる症ハ自發ぬやう小あるも
 の。あれハ。ひろく是と人小も傳て。多年の患を除
 けむべし。そのこ淺近なること。のやう小おもハ
 るべけ色。こゝふるふ。おた意味の。あるこ。こ
 小く。其効と為小い。さうてハ。尋常の醫師の藥と
 用る小も。さるう小まさるること。お色ハあり。

こハ。たゞその
 呼吸の息より入
 下小い。より入
 富くつろき小腹
 小氣の満るこ
 ろと。圖一。こま
 て。まよハ。そのや
 く。みるべし



まゝ人小交の應對をたつめ。口より出ところの言辭。吾意裏小
思念ところと一致あるの一致あらざるや。吾胸の鏡小照見
ハ。善惡黑白既小明小之を知。その心小在之を知ところの靈
妙なるものを識神あり。是乃不生不死の物小しくよく形を
小視聲あき小聽幽真測知べらば。もとより取吾物ととも
とも。たゞ志をらく此軀殼小寄寓。元氣を主宰。大氣を吸呼
しめ。暖と命と識とを保しむる。その徳を天地小溢。その體を鬼
神小同く。も一吾心小塵芥も惡念の根さともあは。已の智
辯を以て掩隠ことあたはむ。吾知ところのものも天地も鬼神
もこ色を知。天地鬼神既小こ色を知。ゆゑ小。其天授の數の盡

るを待。必其報と與ること。もとより一氣の感應をるところ
小しく。更小怪むべし。小あらば。靈妙不思議の識神を
ハ。此小在彼を知。既往を識。誤も。未然と察。違ひ善と聽
ハ善と知。惡を視。惡と思。こ色あをち小賢愚の差別小由
小もあらば。わ色と吾心と欺得べらざるものあは。眼耳
鼻舌身といふ隔礙。あま。契縁ハ死被ねハ寒るといふ。この
軀殼を保たは。假令大徳の人ありとも。この慈ありとら。いふ
べらば。のの眼耳鼻舌身。もと心の使役小しく。その命を待
ものあは。眼小ハ美色。耳小ハ淫聲。鼻小ハ芬芳。口小ハ飲啖。
體小ハ輕暖の欲を具。厭足ことを知。遂小ハ浮雲之榮を怙

の運輸と礙昇陽の機關を遮ることもあらねば。元氣の主宰と
の職を遂ぐ。上諸件の病も一切發ことなく。まは足ことを知天
命小任。吾身の榮辱世間の毀譽のため小情意を動ざるものも。
其心安定く靜あるが故小體も息も自然小調和て。喜怒哀樂の
境小逢といへども決一く昧さき動さるゝことなく。身と毀天
年を損むるなどのこととあるべらば。こゝをもつゝ病の原
と塞く健からんことを希ハハ。慾念を省て心意を調小優さる
ことあるをあらばさるいふ也。然を肆欲のため小身を過生も
つゝぬ病を得く。世小存るのひもかく困厄さるる。いゝある高
位重祿の人ありとも尊とさる小足さるゝのいとあはれハ其志禽

獸小近けきハあり。此編述ところも。聖人の身を修心を正さる
の教なるのうへ小食。眠。體。息。心を合く五調和と稱るも。もと予
が新小構たること小あらば。おもふ小鑿の病を治さるもま
た小の道の外小出ることあらさきハ。今庸俗の爲小。その梗槩
の尤淺近小く通しやを死ものを記し論ところをさきとも。
猶解しおたく及おたりさおもふ輩もあらば。先飲食睡眠の則
と節をまたも體容と呼吸との二を調ることと學で試るの各
其行易小由好ところ小従くよし。そさもあや爲難ものも。歌を
誦て體を摩擦る術ありとも。又經久行て止む。其効を成小いと
てら。五事とも小自然小調ことを得ことあるべし。故如何と

さよバ。此五車もことごとく吾體裏のものより別あらば。相離るものもあらざ。唯知者も實理を明小して。内より之を外小及まの故小易く。庸人も權道を守て。外より之を内小達せしめんことをするが故小難を雖いづも人も人の便宜小任。麓の徑を異にしく。遠近遅速ありといへども。歩を運く止ば。遂ゆる其顛小陟く。真の攝生の道を得。よく其天年を保全し。病をくして死を善せん人の世小多るらんことを欲さバあり。

妄小藥を服べらざる心得を説

病ありて醫を招ふ。その説さころ人ごと小一致ならば。病家も何を是とも非とも辨知こと能く。疑惑く決めたき。切當ぬ藥

を服よりも。先消息く病の轉化を着の懸小絶ことあり。然を強てことをト籤ふと小く決断せんとする尤失當なることなす。其故いふ小とさよバ。その請んと慮醫師の皆麤工小く。病因と察得む所措的當ならぬ輩からん小。其名を記載てト籤小決するバ。その中必一人を其撰小應べし。さよとその定らるたる醫士もかゝるト賤工のうちあるを。藥を服く効あき小まよもや惑を發て再醫と換んと慮べし。その時小至るハ初のト籤ち虚構となる。この神明を輕蔑の罪何小歸べた。も止ことを得べト籤小決せんとかもハ。微も我意を加む。世小名望ある醫士の見識ありて治術小心を潜もの數輩を擧て。その應と

ころの醫士已オシの意ココロ小満カチハととも小も疑ウタガハシむ。病者の死生シヤウシヤウととの人
小委マカセて天命テノミチ小任ユカサる心ココロあらば。神佛シンプツの感應カウインもあるべしことなり。
ささどか、る決斷ケツダンある人ヒトあらば。卜籤ウラナヒを用ヨウる小も及およむ事コトと一
心ココロ小決ケツべけきバ。いづいつも卜籤ウラナヒの無益ムギあること知チぬべし。故ユエ
小病コロウのありアりキもささららあり。術ジュツ小精クワシきイ醫イとも知得チエむ。但庸工ヘタライヤの
述セところ多途マチある小惑マドヒく其處置ソノテアテと錯アヤマらり。まづ少時間シヤウジヤウカン薬クスリと
投モトむく。その動靜オウジヤウを察サカシふくことあり。ことを古人コノキミも病ヤマヒあり
て薬クスリせさささバ中鑿イと得ケルといへり。中鑿イといふも中等チュウヤウの鑿イとい
ふこと也。上鑿ヤマヒも病ヤマヒのいまいま發オコらるさされれ小治チす。病ヤマヒとく發オコらる
めど。中鑿イも病ヤマヒありく薬クスリを用ヨウる小過失アヤマチあるく。必驗カナラシと得ケルものとい

ふといへば。その中鑿イといふものも凡庸オノノケの鑿イといふ小もあ
らばと知チべし。ここままななるる薬クスリを用ヨウる害ガイあることと戒イマシむる語コトバ小
して。凡人オノノケの病ヤマヒも天命テノミチ小由ユルものありバ。理リ小背ソムキする療治レウヂを為オシす
りも。廢置ステオキく自然シヤク小從シタガふことと論ロンあり。俗家ソコウカの了解カチンあり
きことありらも。今其大旨ソノオホマシの道理ダウリと此小述コノセるを聽キケ惣スベて病ヤマヒの熱ネツ
を催モトめる腫瘍シュウヤウの膿ウミを成カスむ。悉皆シツケツ一身イツンの元氣ゲンキの其病毒ソノヤマヒを驅逐カウイダシす。體カラダ
外ソトへ排除ハライんともする。自然シヤク作用力ハタクラキの爲ナスところなるも。鑿イもたた其
足タラざる力チカラを戮タスく。病毒ヤマヒ小對抗ハリアウ元氣ゲンキを負マケざらしめんため。小藥コノクスリ
石鍼灸シヤクシヤウを用ヨウる也。作用力サウヤウリキよく病毒ヤマヒを排逐ハライダシす。小有餘アホリトキも強チカく。小藥コノクスリの
力を頼カレ小及およむく。病ヤマヒも自然シヤク小愈イユべきあり。但氣血キケツの運輸ウンブ小逐シツ

次定限あきば。頓病を頓小治をべけきども。漸病を漸小治を
小あらねば。効をたもものあり。凡く病小日数の定期あること。ひ
こり痘瘡麻疹の眼小見えやをたもの、み小あらねば。傷寒瘧痢
かよび一切の病小。皆其定限あきば。い小強て過小治さむと
慮こも。その期を經る小あらねば。決一愈もの小あらば。竹木
刺の肉中小あるものを見よ。自然作用力の膿を釀て排除小日
數を經るごこし。又蒼卒の微感冒を曲肱假寐より得て。そのあ
ひと喫煙一ニ口小へ過さきども。寒氣小滕理を犯さきて後
週身小徹汗を得小あらねば治ことのある。その時刻を經るを
も考みよ。況惡寒を水と沃るごこく。大熱を燉ごこく小して。

食味も失起。臥安のらも。輕易ならぬ疾の速小愈べり理なんど
あらんや。或も下疳瘡より漸小蔓延たる微毒。まゝ手掌より惣
身小浸淫たる肥前瘡等。或も數年腹中小鬱結する癥癖のごこ
き。其他一切年月を累する疾の卒小治べり術ときらば。疰癆の
類も暴小發やうなきども。皆内藏小損害たるごころあり。以
漸發動の故小。頓あるやう小見えも頓小治ぬあり。世人も
此理を知らば。その醫藥偽鑿の詞を信し。一週二週の日數を限て
治さんといふを喜まよ。遊辭裝證ある鑿生の劑を用く。治べ
き期を失。或も巫祝の言を信し。無言脈を實さかもひ。夢想の妙
藥名灸の等と嬉鑿者の方角を撰あるひら俗家の一知半解を

る醫按イアンだく小。妄意ミダリある治療チレウを施ホシ。再得マシエたき父母の遺體カタイを
毀傷クイセウこと。大なる過失アヤマチと知シラざるや。故小藥クセリを病ヤミを治イサとべれもの
かまごも。其應否ソウオウラフサキとも辨ワカむ。妄小服ミダリべれもの小らあらば俗人シロウトを
此理コノリ小昧クセリ。藥クセリとだ小いへば。死シメべき齡イナも延タやう小かもへど
も穀肉果菜コクニククワサイの常小喫ツヨクもの、外小藥クセリと名ナ疾ヤミを治イサべれもの。
偏味ヘンミからむ毒ドクのなれ品モノをかきことなり。故小病小應オウととへば効キウ
と奏ススごことく。應オウぜささへば其害ソノガイを生シむべし。无妄之藥ムバウを試シべの
らばとも。古聖人イミヘイの戒イミあり。世間の麤工イシヤの所措シヨクを見よ。頭痛ダウツウをこ
いへば。方書ハカガキの頭痛門ツウツウ小く藥を調トクて與ユととも。かまへ頭痛小も。
傷寒感冒ミヤクカンヒキカヒもあり。中暑アツサアツリもあり。微毒ミヤクもあり。癥瘕シヤクもあり。蛔蟲ウヰムシもあ

り。乃至經行マタハツキヤク不順フジシも。子藏病チノミチも留飲リウインも。酪酏サクノエヒも。停食テイシヨクも。注車チウシャ船フネも。顛テン
撲ミも。瘡瘡ハクサク麻疹ハシカの序熱ゾヤミもあり。病因ヤミノエト各異オノオノなり。仍ヨリく藥クセリとその病ヤミ
因インとさへ治チととへば。頭痛ツウツウを支症エサシヨウととへば。別小頭痛ツウツウの藥クセリととある
處タリに道理ダウリもなきと。その病因ヤミノイを正タシカ小認ミトこととのならぬ。ゆゑ小
先頭痛門ツウツウ小く藥を與ユととへば。劇場レバキと看ミく泣ナクもの小予コと
いふがごとし。故小眩運クセリとといへば。眩運クセリの加味カミとく藥を加へ。
腰痛コウイタクと訟ソウととへば。腰痛コウイタクの加減カケンといひく。一二味イチニミを増マシとと。その證シヨウ小
のく拘カウ方ハクを處ツケルがゆゑ小。患症多岐ウヰヤクオホキとと。小方コ二十餘品ニジュウヒ小
過スグものあり。大小晒オホコべきことならばや。かゝる拙伎シツキを捨ツケんと。專セン
人の氣キを釣口給ツクキと壯時ソウキよ。世ヨ事コト小儼カシコき雄辨ユウベン饒舌ニウゼツ小眩惑クセリ

この悟サヒラをイく。や、才サイチ智チあるものといへども。遂スヒ小コちその弊オトシ小コ
小コ陥オチリ害ガイを招マコト小コいたるあり。故ユエ小コ病因マヒノモトを確シカトモカ知チことをく。痰タン積シヤク血ケツ
積シヤク風フウ勞ロウ血ケツ勞ロウふど、詮イヒもを名ナとヲ稱トナフ婦フ人ニの病ヤミと一切サイチ血ケツの道ミチと
いひ。あるひも瘀フルナ血ケツの所ツガ為ナリとス。小コ兒ニの病ヤミを怒スデてハ蟲ムシまとち痺セシ
とよび。知シぬ病ヤミの留ワケ飲インとス。肝カン火カの亢タカ也ニもとまとち肝カン經ケイの濕シツ熱ネツ
あるひも昔ムカシの疲ツカレ弊イデの出イデたるあり。心シン氣キの損イタミ痰タンの所ツガ為ナリとス、遊ユ
説ナスの類シヤク皆ミナ世セ間ケンの鑿イシヤ者トホリの通トホリ弊イデ小コ。こをとス病ヤミ家カうけのよク記キ詞ジと
ちいふあり。ともも實マコト相イを告ツケルとも辨ワカル知チまとちかもとス。聊オホシ害ガイを
き小コ似ニたとちども。鑿イシヤ師シも自ツカラ覺ラぬまの。遁タシマ辭ジ小コ。の、鑿イシヤ按アン小コ氣キ
をととるふたとちあるべし。自オノ己シも若モシく失コト慮ロても。投オケル藥ヤク小コ効キの有ル

べき道理ダウリをく。どの愈ユユるも自然ゼンゼン作用サウヨウ力リキの運ハタ為ラるコト知シべし。
此コノ旨ミチを了オチ解ゲさとす。庸ヨウ鑿イシヤの為タメ小コ幻マヤカさとす。君キミ親オヤの病ヤミ小コもかもとスぬ
不オチ忠チウ不オチ孝コウの罪ツミを得ウルことあらん。こをとス孝カウ子シ忠チュウ臣シンの尤モトモト知シんバあ
るべのらざることあり。親オヤ小コ事ジるものも鑿イを知シんバあるべ
あらむといふ古人コノの教ツケちこ、小コあり。この意向オモムキを會カ得テンとスこ
れ小コち。世セ小コ所謂イハユル攝セツ生シヤク藥ヤクとス。病ヤミなき小コ常ジョウ小コ藥ヤクを用ツクるト。たとへ
バ泰タイ平ヘイの世セ小コ干カン戈カを車クルマとス。晴セイ天テン小コ傘カサを執シツ履ゲタを着キぐトことく。損シム
多オホく益エキを決ケツしとかきこととも知ルべきあり。鍼ハリ灸キウも病ヤミをくても
用ツクべのらむ。况マシテや火カ熱ネツ小コ耐タエむたき小コ兒ニのさせる病ヤミもをれ小。養ヤウ
生シヤク灸キウといふ類ルも尤モトモト弊イデ習シヤクあり。いまある術シユありとも定サとスる人イノチ命メ

を灸藥キヤクヤクのいゝ續延ツギノビの理リやあるべき。故ユエ小の延年益精藥トシラノベセイヤクマスキスリといふの類ルキも。皆人小イニヨク淫慾インヨクを進スる。奸佞者ヤウキヤクモノの所爲シワザ小く。や、志ココロあるもの、用ヨウること小あらざると知シルべし。この理リを明アキラて。疾ヤサヒあらば命メイと天小任治マカセヂを鑿小委ユダチていさ、もの貳フタなきを。真小天命マコトメイを知チる人ヒトとちいふあり。いとづら小庸鑿ヘタイセイの辯舌ベンゼツ。俗人ソコジンの異議小昏迷マヨフる。譬タトヘバ船中セン小在アリる汝路レホヂも知ぬもの、支揮サレブと容モシおごとく。忽風キツクの難小逢ナニぢ。覆敗フクカイを免マヌカと。故小船中セン小く。天氣海程テンキレホヂ小熟ナレと。舩人センドウのいふことあらざる取證モトメべらば。鑿イもまゝ然シカありと知シラざるハ。愚オロカあると小あらばや。

鑿と撰ニラをき意得イデととく

親オヤ小事コトものち鑿イを知シラんバあるるらむと。古人コジンの言イヒも。鑿イ術ビョウを學マナべといふこと小あらざる。其世小聞キコる鑿イの巧拙コウセツを預知ヨクシく。親オヤの病ヤメあると死小治ヂを乞コフ小。錯失サマナをきやう小との論ロンあり。鑿イの術ビョウ人命イ小係カところの重任タイマン小く。いなかと才智チある人の精修セイシュて其道ミチを明アキラく。且病者カウビヤクニンを衆多診察オホクシニサツ。療治レウヂ小意コノロを研ニダても。あは得ウルところと得ぬところとあり。其妙境ソノメウキョウ小到イタことと尤難オホカタナキここあり。さば季康子キカウシの贖オク薬クすりを。孔子コウシのいまと達タツせむとのたまひく。服ヒたまえぬを見ミふ。況シテや凡庸オホクの人ヒトをシく。親オヤ小事コトんがため小鑿イ術ビョウを學マナべ。その見聞ミキクところの鑿イ説セツを心醉ココロヒ臆斷オソク偏見ヘンケン小まるせ。或シテた紙上カキタルマの理リを的マド小く。經驗ケンケンもとざる藥クすりを自コト

ヒこりて。その親の病小進マシラをもることもおらもあるべし。かくても
害ガイのなきも僥倖コハレズシ小く。ふろく考カウさバ大小畏懼オソルべき所コト爲ナる。こ
を孝子仁人の所行オコナヒともいひおさかるべし。然シカバその、條理スサヒ
小疎クワき儒者ニユシヤの此語コノゴを謬解アヒマリガしたる。却カウて害ガイあることとのや
たる。今俗家シヨクウタ小あり。鑿イの巧拙コシエと知んこととの難カシキこととのや
うあさごも。た。己オシの内コノ心ココロ小我テメシといふものを微オホも蘊ウケこととあく。
最負偏頗ヒイキヘンバの念オモヒを去ステ。病シヤクの初發シヨホツよりその以前イゼンのこととまづも熟
と考カダ。鑿イの述シズルところを檢査ヒキアセ。その鑿イの辭コトバ小飾ツヤあまコビく媚モトムを要モトム
薄情ハクシヤウのもの。信實シンシツ小く。治療チレイウと專小モツハラをもるものを鑿イを鑿察カシガハルへし。
誠慤マコトの鑿師イシのいふところ。俗家シヨクウタの思惟シウイしたることとあく大小

相違サマハをもることもあるもの小く。心小合ナハぬこと多阿諛オウゴンと旨ハシこ
容コビを取トモる輩トモガ。專モツ此方コノカタの言詞コトバ小從ツキて浮説ウキマシ病按シヤクアヒと。的テキ中ナカたりと
思オモフより。事コトと誤アヒを端ハシを發ヒキあり。且ソト鑿イの巧者カウシヤありと稱ホメささく。壯
より老シヨシ小いたるまで數スウ千人チヤウニヤウの重病シヤクシヤクを裁量サイリヤクたるものありと也
每事コトノト小的シヤクシヤク中の鑿イ按アヒをあらざるもの。病シヤクをいふものといふあ
あることより發オシといふ理リだ小知ぬ俗人シヨクウタの冒寒ヒキカゼ停食シヨクシヤクの輕易證カウキシヨク
小もせふ。真マコトの條理スサヒの辨ワカレべきこと小あらぬを偶小オト謹論キンロンを聞キ
て却カウて己オシの思慮シヨを背セを疑ウタガはる。愚昧オホカあること小あらばや鑿イの
明察懸斷メイサケンダン事小臨シて過失アヤマチあら人々ヒトヒトとさ小國天下クニノミの政セイを委任マカスこ
もよく治シべき道理ダウリあり。いふこととあさバ。事コトの理リ小明メイ小仁愛ニヤイを

心と一々。勇毅果敢のもの。小あらしむ。その妙境。小到。おとけき
バ。世小其人。あはれも亦宜。あらびや。外表。ふり腔内。を察。病の所
在。を知。薬を與。るの難。を慮。る。常。小効驗。を見。信。用。を。鑿
のいふ。と。あ。ろ。を。り。ふ。ふ。と。微。失。あり。と。も。と。ま。よ。り。退。棄。べ。と
小。あ。ら。む。俯。仰。小。便。巧。治。術。小。精。を。研。さ。る。黨。よ。り。も。鑿。道。小。の。ミ
心。を。潜。く。誠。一。操。素。あ。る。者。の。過。ら。却。く。俗。家。の。眼。小。も。見。ゆ。る。も
の。あ。り。を。べ。て。鑿。の。巧。拙。を。知。得。ん。ふ。ら。い。る。小。も。己。が。腔。内。小。あ
る。私。見。を。一。掃。て。時。鑿。の。矜。飾。を。甜。語。遊。辭。小。起。惑。と。無。と。べ。始。接
たる。鑿。師。あ。り。と。も。その。巧。拙。を。い。る。が。の。辨。お。ら。ん。や。昔。の
良。將。も。數。萬。の。英。雄。の。心。を。一。言。の。下。小。知。得。て。こ。色。小。大。事。を。委

て。使。令。こ。と。己。が。手。足。の。如。あ。る。を。か。も。ひ。見。ふ。と。と。ら。小。比。て。ら。
鑿。と。業。と。一。く。生。涯。を。車。足。ま。と。か。も。ふ。小。量。者。の。心。中。を。察。し。知
ん。こ。と。何。の。難。こ。と。の。あ。る。べ。と。然。と。今。の。諸。侯。の。病。あ。る。こ。と。小。
鑿。と。擇。こ。と。其。宜。と。得。ぬ。卑。賤。の。小。も。ま。さ。り。く。錯。失。多。處。方。的
實。を。と。る。こ。と。少。其。故。い。る。小。と。あ。ま。と。バ。勢。小。乘。時。鑿。の。疵。點。と。華。說
の。爲。小。昧。さ。と。阿。黨。鑿。者。の。雷。同。合。按。あ。る。と。唯。左。右。近。侍。の。辭。小
從。其。實。否。と。も。糾。を。採。用。の。故。小。偶。其。非。を。知。鑿。師。あ。り。と。い。へ。と
も。其。徒。の。爲。小。廢。棄。ら。と。事。情。を。通。べ。と。由。も。あ。く。默。止。を。以。て。
遂。小。的。實。の。治。法。を。得。こ。と。能。ぬ。貴。人。小。篤。疾。あ。と。必。死。ぬ。と。こ
と。の。や。う。小。な。り。た。る。と。尤。嘆。べ。と。弊。習。な。ら。と。や。假。令。諸。侯。の。尊

このへども。鑿伎も賤といへども。親の死生小係一大事を任ん
ふる。儲君自鑿小應對し。その病按を照管したまふべし。も一親
の病を患る志の深。顔之推といひけん人の教のごとくに。
自身小鑿を送迎したまふとも。何の辱をさるることのあるを。
大に君父の至重ある命を託する鑿師ら。大役あるとさの都督
を。將軍よりも。其任重こと小して。其支揮を國家小係當大事
あれば。ことを輕視し君子の行小あらねらる。然を儲君ハ其
臣下小委て顧む。臣下之を鑿官小任。鑿官ハ之を他の虚名あ
る鑿師小説く。互小自己の後責を逃んことを。不孝不忠不義
こと小勝ことやあるを。も一戰場小君父の敵小圍と。或ら

單騎小難小逢たまらん小。孝子忠臣の心を以てせ。身と捨
て赴援せらるるを。然と今病といふ巨敵小偏ら。と
る君父の艱厄と。よとこと小見物。とを。取と思ぬ。こと
禽獸の所行あるべし。が。不忠不孝のもの。戦國のと。小會
ふる。我軍といふとも宥べさ小あら。まづ其罪を正て他を懲
べさ。累世の恩遇をあざ小く。た。その俸祿を失んことと。
の。恐るるを。小ごこと。や。ま。鑿の病家の迎意を專一と。く。
人小譽ら。名と鉤んと。か。も。輩の。緩急の用小當べさ。道理あ
るべし。とも思。さ。や。の。徒。危篤證小。駛藥を。與べさ
ふも。た。え。く。投。た。辯舌小。ま。せ。く。人。を。詐。藥苦といへを

方を轉造とさけバ加減カケンし。辭巧コトカタのかためてあり。外見ウチミを君子ヨキヒトのやう小見コミ也とさども。其内心ソノココロノウラの穢キナクことと。錦ニギキ小糞クソ丸マを糞フたるのニごごし。まゝ鑿イの術ユツ小巧タカクありといへる、ものも。青雲シニウセを仰オホヒ權門ケンモン小媚コヒと要モトムる心ココロ發オコルとさども。從ツグて伎ワザ拙ツツカなるものあり。まゝ茶チヤの湯ユ誹諧ハイカイ連歌レンカ蹴鞠カマリとの他ホカの百伎ユツグイな小、ても。一途イツ小耽樂ズクタクものも。鑿イ伎ワザハ疎放ソソナラことほのあさりあり。況シく酒色シウシキ小身コミを溺オホラし。或ヒハ鑿イ業ゲツの旁カタハラ小貨殖カチマツのここと營イヒ賣藥バイヤクなどと專モトメ小し。或ヒ富商フカウ大賈ダイカウを崇タカムことその法ホフ小超コユルるものあど。其術ソノワザの拙ツツカといふまゝもあらば抑オシ鑿イ小伎コワザなりといへども。至重シムキ人命イノチ小係ヒケル大任ダイニふ。他ヒトの憂苦ウレクを已オシ小分心コバシを勞オシムるものあると。たさへ富王トモ侯クニミ小比ヒトものといふと

も。その非禮ヒレイをあるとも思オモむ。奴隸ヌレイのごとく小其門ソノカド戸ド小出入コシュツニュウをヨココトモカラるヲと喜輩ヨコバシ小。陌危マクキの病者ヤマトを委託マカセことと。輕忽ソコウあること小あらざや。また世ヨの口實コトワザ小も學鑿ガクイ七サセふまはらぬといふと。さること小。鑿イの伎ワザ倆ツヅも。學問ガクモン講究コウキウたるのミ小。煉磨レンガの功カウをある小。あら祢ネハ。上シヤウ工コウ小も成ナラぬものあることと。米賈コメヤの米コメを一見イチケンて其州郡ソノシウケンと辨ハシ。兌舖ダイポの掌中テウチュウ小。金銀キンギンの真贋シンケンを知シ。帛商ヒツカウの絹紬キヌタマを手小握テトリて。其所産ソノソダノを證イフ小。差サことあると。書籍シヨモツク口訣コクゲツ小。据ヨルもの小。あらで。累歳レイサイの習慣シヨクカン小あるおびとく。鑿イもまゝ然シカあり。書冊シヨモツク上ウヘ小。て理リと談實タンジツ驗ケンを經ヘたると少スクものハ。其誦ソノヨミたる典籍コトモツクとも。害ガイとあると。却カク事コトを誤アヤルこと多オホし。况マシ專儒センニウ釋シヤクの書シヨを好コトアル。或ヒ運氣ウンキ五

行ふごとを鑿の原意をとる輩いゝるぐの治術を爲得べきはと近頃鳴蘭の鑿學大小流行し。その風土の我邦小異をも辨む。ただ其説の奇異を喜、纖巧ある小昧さる。こをを愛慕鑿士も唯狄鞞の翻譯せる鑿書を疎小者過ふ。その虚を吠狗小同く。其説いゝ小と研窮べき小もあらむ。當否いゝ小と疑慮も發祿ハ。鳴蘭人の説ことと皆妄言のあきものとと謬執切小之を唱さバ。俗人もはと珍異こと小聽あし。病者を附託蘭藥の倣希小をさしめ。遂小害を冒るもの多し。才高識明者小遇バ。ま、採用することもある西洋の學も。今々徒小世の害とのをありて。益あることの少きを。彼一偏小陥て。向ところを察小せむ。古人の

所謂好也とも其惡を知人の。世小鮮小由バあり。はしと西戎學の大本とをるところ四十一元行の穿鑿。その塞ところ多と知む。又無と有とあらむ。有と無とあることなり。かといふ説の類も。甚さ左道小し。大小害あることともあり。今此らの非を辨析たりと。固俗家小於く用さるのをあらむ。了解のさきこと多けしバ。其預さることとを喃も論む。たゝか小ごとも新奇を好む人情の常あるバ。遠慮をも致さし。衆人雷同之を唱和小至る。尤嘆息ことともあり。さき小もいふごとく。鑿を言行一致小し。忠實仁愛を其志とをるもの小あらねを。大患ハ委のたく。病家ハ鑿を延小敬と致て。吾意必を毫も執む。一切著見あく。籤

方位日の吉凶等の癡こと小拘忌を誠懇を以て鑿小對小あら
さし。良鑿小々遇るさうるを。鑿術の尤修得たを。晨夕小
思を苦く其過歩るらんことを庶幾ども。猶其域小到えざるを。
況其難を知鑿人もはる世小少あるを。かゝる昇平の世の一大
厄小して。嗟嘆かもふあまり小。他の毀譽小も拘む。今その鑿略
を記す自戒。さうら衆人の意得るを小とありける。

鑿小相對する心得を説

病證を鑿小告る小。病の發一端のことより漏落もあく。第一
小々飲啖の多寡を。寤寐の艱易を。便下の利否を。今まで服する
藥の次第。平素の宿疾をも纖悉小告る。治を乞ふさあり。久疴小

あまて。以去のことへ忘失こともあるものなむ。よく回心
嘗て肥前瘡。微毒下疳。瘡。痔。陰癰。臙瘡。或は痛痺。足痺など患
る。打撲。損傷などしたることまでも。巨細小省慮く説べし。たと
へ隠諱へさることなりとも。病小與たることを秘て。大小損の
あることなり。是の彼らと鑿士のあさ小も病因を探媒小ある
やう小をべし。前章小も述ごとく。己の私心小病按だてし。そ
を先鑿師小語ハ。不可ことあり。求售鑿師ハ其辭小從て。真の
病因とハ探えむ。先病者の意を銛と主とをさ。其説を聽て。己
小諂ふ耳言さるつゆも覺げ。唯其心小投を好ぶ惑亂より。遂小
ハ其係蹄小かゝるあり。こは意得るんハあるをさるること

かり。は、カクマシクヒカスルコ抑戻福心の病者も。鑿の伎倆を檢んと。病狀を詳説を
し。鑿者の方より揣度しめ。その論辯を聽んをとるものあり。
こま大なる左過也。鑿の脉を診色を察腹を按て。外表より腔内
の疾苦を知んをとる。鹵菴小くも修得たさ術小く。沈痾小
かりても。百般の證候參査小あらねハ。其道小僥利鑿者かりと
も。漏失ミオキかりともいふべらば。然とましく土郎中をや。詳クシキのう
へ小も悉告小あらねハ。過アヤマシあらんと懼べさと。隠カクミて語さるハ。
愛重タイセツある己の身と玩物小とるごごとし。同大便の泄下といふ
小も。其色相ノロアヒと臭氣ニカヒ小よりて。天地の隔あり。秘結ヒセツクをといふ小も。
蘊熱ユンネツ也。小燥バキと結ヒセツクとるあり。津液耗ウルホヒと結ヒセツクとるあり。癥疝シヤンとよ

互牽引ヒキツクて結ヒセツクとるあり。不遂フツキ小ありたるところ腔裏小ありて結
とるあはば。強小快樂クワクシキバの理を一槩カク小投モチべさ小あらば。小便の
通トウも亦爾然マタレリと理鑿リイセととを同一小裁量サイリヤウたる輩ヤウさ小も
あらば。最喘氣サイセンク咳嗽カク胸脇牽痛等の腠理昇陽小支障シヤウある及小便
不利フリスレより来。或婦人小腹小癥塊シヤクの患ナヤミある者小。唯内部子藏の
水腫スイシュたるのとかもハ。其治法小く効あるもの、類ルイを偶見
こころなるも。此等の病者ハ必其小便平素小異ことあるも
のふて。患者の心を注ツケる自致ジシ小あらざと。鑿の診候小遺失イオシを
さこ能アタむ。其他小便不利より浮腫をも發せむ。内藏の患とる
るものありて。病者もさより鑿師もそと覺サトさして治術を

誤アコルことあはせレ俗家シロクツもよく其意得オホシべきことあり。はらシカラ婦メシツカヒ女の暗疾シモノヤミを恥ハヂ告イハさるもの多オホシも一シカラ然シカラハ母氏ハハの夫ヲソト主トまトも女メシツカヒ奴メシツカヒかどより陰ヒシカ小イ鑿ツタツレ小ツタツレ傳語ツタツレやう小イをべきことあり。こイも自告ミタツツルの優ユゼ小イの志シのシ知シへし其ソノ他ホカ小イ兒コの病ヤミと乳媪ツバ小イ委マカスるも大小ヨロシ不可カラヌこと小イ過アヘチと致イタス基本モトヅなり乳哺チタベウ前後ダイセウ澁ベンのことまイくも其母ハハ自ミタツツル檢トメキて鑿イ小イ語ハナシべし。最小トソク兒コの鑿イとイ啼ナクものも腹診ハラミナシも精ツギ小イ爲ナシのイ大オホシきものイあイはイせイバ其患ヤリダイ状イを巨イ細イ小イ談モシタリく治ヂを乞コフ小イあイらイねイバ大オホシ損シのあること也。たイこイへ良鑿ヨキイシヤありイこイも衆病オホクヒヤウシ者ヒトリを一身ヒキウケ小イ擔ヒキウケ負ヒキウケて四方カケスル小イ奔走イト間イトをイけイせイバ蒼卒チヨウソクの應對オウタイ小イ見聞ミキキ小イ遺モルことありイこイもいイふイべイらイば故ユエ小イよく記コト得ロエく説話モンガタルこと緊要カンゼンあり。孝悌カウテイ仁ニ

愛アヒミの志コソク深コソクらん人トシクも尤トシク意イを注ツクべイこイこイなるイはイらイばイ薬味クシヨクの口カミ小イ適オスぬイと妄マヤカシ小イ鑿ツタツレ小イ訴ウツクるも屢劑レウジの掣肘サマタゲとありイこイも良藥リョウヤク口カミ小イ苦カけイせイこイも病ヤミ小イ利リありイこイもいイふイらイばイやイ志シのシあイはイせイこイも其ソノ強シホく服モキルゴト毎イ小イ胸膈ムマ小イ拒カクく吐逆ムカヒケと促モヨボしイ或レヒも服後クニルアト小イとなく平穩オダダあらイば藥汁クシリノツクエ泥滯ツクエものイこイも作用チヤクシムク力カラの容受クライレざるイことありイこイも力カラをイ強ムリ小イ服イせんイとイをイるイも可ヨロシらイぬイことありイこイも却カクて害ガイを得ウケことありイこイも其由ソノユを速ヤウ小イ鑿ツタツレ小イ告ツゲくイ藥クシを更マシ一イツむイべイしイこイもイへイ的テキ當タウの藥クシを瞑眩メイケンして捷効スイカクを見ミことありイこイも一イツ鑿ツタツレ小イ論ロンむイべイしイこイもイこイもイあイらイばイこイも知シべイしイ又惣スベテくイの藥クシを空スキ心ハラ小イ嚙ノムと可ヨシことありイこイも食シユ後直ゴスチ小イ服モキル佳ヨシらイばイこイも下焦ゲブの病ヤミ小イ食前シキマヘ上焦カミの病ヤミ小イ殮レウ

後ゴと良ヨシとをといふなると。大オホ愚オロカこと小コく。藥ヤクハ何ナニある理リ小コく効キ
あるといふことだ小コ辨シ知ラぬもの、いふことなれば。必カナラ拘カウ執シツこ
ころ小コあらばと慮オモべし。

病ヤマトの傳ツル染シを理リと説ツ

大オホ凡ヨソ一切イツセツの病ヤマト轉ツル化カざるものあり。其ソノ轉ツル化カべき理リを明ミ小コ知チざと
ハ。之ノと避ヨクへきこととも。治オホまべき道ミチをも得スことあると。志シのち
あはれども。其ソノ深フカ義ギ小コいとりて。いゝやう小説トシヤク示シとも。俗ソコ家ケの容ヨウ
易スグ會エ得トまべきことならぬ。今イマ唯タビ其ソノ大オホ要ヤウを記シく衆モロ人ヒト小コ告ツク
ものありし。先マツ第ダイ一イチ小コ了リョウ解ゲべきと。人ヒト身ミも天アマ地チ間カンの萬マン物モノの理リを
具スく遺ユこころなむものあり。世ヨ間カン無ム量リヤウの病ヤマトも。悉シツ皆ケ内ウチと外ソトと

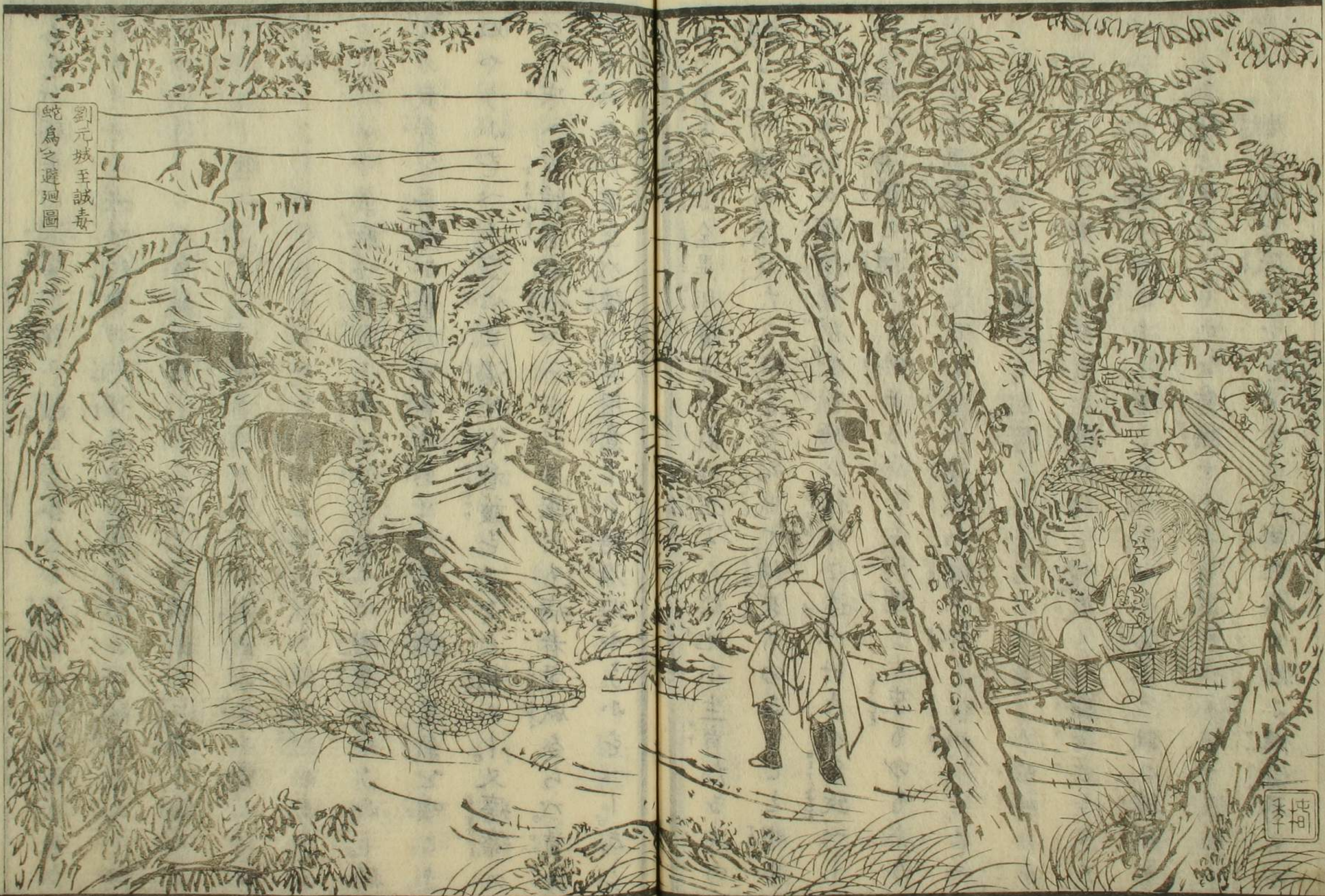
相オウ應オウトく發ハツる故ユ。傷キヤウ寒カン時ジ疫エキ癘リン痢リ痘トウ麻マ癩ラク毒ドク肥ヒ前ゼン瘡ソウ。かよび脚カク痺ヒ。
黃ワウ疸ダン癩ラク癩ラク癩ラク疾シツかといふ病ヤマトのあるとあらむものまづも。傳ツク染シ
ざるも一切イツセツかきものどと知チべし。其ソノ中ナカ費ヒ小コく知チ易ヤクと隱カク小コ
て察サツし。たさとあり。正タカ小コとと辨ワカべたく認ニギらざるものも
有アルとも。今イマ其ソノ顯ケン著シツものを知チ得トべ。他ホカハ自ジ了リョウ解ゲべし。今イマ此コノ一イチ人ジンの
傷キヤウ寒カンを患ヤムものあらん小コ。其ソノ初ハジメ外ホカ界カイより轉ツル輸タたるともあらむ。内ウチ
界カイより釀カモシ成シたる熱ネツ病ヤマトの類ルシもあらば。偶タラ寒カン冷レイ小コ觸シュクことあり。肌カ
膚フ昇ノボ陽ヤウを胃イ塞サカシて。腠ケ理リ發ハツ泄セツありくあると故ユ。こも小コ對タイ抗コウべ
き惡アク寒カン發ハツ熱ネツを促オソ之ノを汗アセより解ゲし得スまれば。其ソノ患ヤム漸シブ小コ内ウチ藏サウ小コ及キ
し。經ケイ脉ミツ腸チヤウ胃イの運ウン輸シュ平ヘイ素ソと大オホ小コ異イる故ユ。此コノ小コ於オく一イチ種シユの毒ドクを

醸造カモシナスをよより之を人小傳化ツタフルとさる。初小寒ハセマ小觸カシキて皮表ハダヘより病
を得エたる人とも。其發病ヤミヤク異小一コトく惱苦劇ナヤマハゲシク其患速傳變タレヒバヤクツタヒく内藏ウチ小
及オむ。こ、小至イタレハ其毒ドクを傳輸ウツルたる人の病と其證相似シヨウアヒニたり。偶異オトコト
ものあるも。其人の性質セウシツキの各別ベツツなる小よとハあり。そよより一
て其毒ドクを人より人小轉化ツタヘて患ヤムあり。然シカレども初發シヨホツ小病ヤミを得エ一人
ち。たハ一時皮表チヨウトハダヘを壅塞トチサガレたるより來キタル小過スギざる。或アヒハ陰濕シツケの地チトコロ。
壁カベのいまだ乾ぬところ小卧フシたるをど一時イサカの妨害サハリ小由ヨルの病因ヤミノモト
ら各異サマクあるとども。何ナニ小も蒼卒ソウソクの事コトあると。鬱熱ムツネツ日を累ツミて。一種レユの
傳化ウツルべき病毒ドクを醸成カモシナスが故ユあり。この痘麻ウツクハシカ肥前癩疾ヒゼンカラガサの類ルキの異域タコク
より轉輸ウツルものもはこ此コレ小同トウく。其病キの本源ホトも。天地開闢カイビヤクの太古ムカシ

より有アル小も非ヒ。全異邦蠻夷センイホクマンイの氣候キコウ正タシらぬ地チ小生育ソダチたる人の
體カラダより。一種レユの惡戾アクモトリたる病毒ドクを結成ケツセイて。傳來ツタヘものあること明アキラカか
ること。次ツギの痘瘡癩疾ウツクサウロサ肥前瘡ヒゼンの條ジョウ下小述シメべけとハ。參攷サンカクべし。
はこ槩スベて傷寒シヤウカンと稱ヨブべき熱ネツある病ヤミも。内因ウチナより來キタルものもあり
て。所由ヤミノモト小區別シヤベツあるところ。後の傷寒シヤウカンの條ジョウ小於オイ分トキ析キカスべし。をべ
くととらの毒ドクを轉輸ウツル小も。肌膚ハダエよりくるの口鼻カハナより吸呼イキ小從ツレ
て致オスもの小も。熱ネツある病者ヤミヤの側小睡ソバを催モヨシ或モシハ榻腹タダハラ薄衣ウスギを忍ニシ。又
ち疾小由ヤミく體小蝕フクク乏ツクあるかどの人能ヨク之小當アタあり。故小轉化ウツルや
を熱病ネツビヤクと思オモふもの。看護カンゴクせん小も。其用心ココロエあるべきこと
ぞ。一。睡スミて風フエを感ヒキやをさぶごとく。卧フシたると死小傳染ウツル易ヤシもの

劉元城至誠毒
蛇爲之避迴圖

卷一



卅七

卅七

あまべ。病者の近旁カタヘ小在アリく寝イヌルことあど最宜トシヨコシのらぬことあり。
然あまども孝悌カウレン仁愛ニヤケの志深ゴロフサキものる。其身内ミウチより發出ハライダシく上下ウラダマ四方カウを衛護イモルところの氣ありく。いゝある惡毒氣アレキ小近觸チヨクと雖決イハモケツて排除ハルシキく體小染ソメことあまきものあり。此衛氣コノキを妄小庸人ヒトの眼メ小みちるもの小あらび。之を知シレこと甚難シタカシク。故小此修行コノシユギウのあまき人カンビヤク。首病トリスダヘモノの中オキコ最飲ツケ啖起卧カラダ小意ツケと注ツケく。身心ツカレの困憊ツカレぬやう小。病カンビヤク人の衣衾キルキと吾身ソガシ小着ツケげ。口鼻ハナの息イキと二便ニベン身體カラダの臭氣ニホヒと嗅カキこまぬやう小をべし。空心スキハラと渴睡カマリヨロエく看護カンシヤクをること甚あし。又瘡癩ソウラクの病床トコへ。虚脆者ハタヨウキモノを近チカヨルべのらび。さまど病者オヤキヤウダシ至戚シセキあらば。首護シノガクら少コウべのらざまべ。豫カチて其用意ソノイく轉染ウツラぬやう小をべし。さの

も炎熱アツサの頃コあど。其疾ソノヤミ小斃レニたる人の冢塋ハカレヨへ上ニヤべ。屍氣アヒキキ小觸ソウぬやう小戒マコトクべし。又痘麻ハタウハカを避ヨケルこと至イタクく難カタキものあること。後ノチの卷マキ小言及イヒオモスべく。肥前瘡ヒゼンガサ黴毒カラガサの避易ヨケヤスキも。其餘トコロ下小於オイく詳ツギヒ小説論トキレヒを讀ヨミて辨ワキテべし。ことら其轉染ウツルコトを御オモテべき梗畧アララシを談カタルあり。まど忠孝慈チウカウヒ仁ヒの志篤ゴノロフサクミ身ミと抛ステく看護カンガクをる人の熱毒等チツドクナド小傳染ウツラざる。昔ムカシより和漢ワカンとも其證ケシ少スナヒのらび。今の世オホクも多見オホクるところあり。然シカレと人情ヒヤウの淺ウスキやのらる。己オシが懿親戚屬レンルキヤありとも。傷寒熱病シヤウカンの類ルキを患ヤムとさる。傳染ウツルことを懼オシて。看護カンガクを他人タ小託マカセて。病床ビヤウシヤク小近チカクことをせざるものあり。是人倫コレニシの所行オコナヒ小あらむ。殊父母トリコナの病ヤミ小命イネ小も代カヒべき小。傳染ウツルコトを懼オシるハか小ごとど。さまどとく吾兒ワカコの病時ヤムトキ小ハ

通霄寢もやらむ者侍鍼と死小も己身を刺るごとく。灸をると
さる吾體を炳るごとく思ふ。己を生たる子故らばや。然ハ
己を生たる父母の病を疎放小むることあるべらば。兄弟
こくも吾親よりとてハ同子あり。吾親族を曩祖よりとてハ同
孫子あり。然と路視るごとく。或る身小閑を。彼を看病小慣たり
あといひく。人を雇て侍たぐひ。豈憎べること小あらばや。懿親
ともかく待バ。奴婢の病をいゝ小苦惱のも知む。醫師小藥を乞
たるをあり小く。服う不服うも問む。重るべし延日と。聽と即落
籍を。主臣の情も思ふ。行天譴豈畏べること小あらばや。此
論を且閣さて彼病毒を其本因各異小く。一と一とく同もの

あることあり。故小痘毒を輸て麻疹小もあらば。肥前瘡が癩毒
小も變ぜバ。瘡疥併病もの。瘡ハ截ても痢もとのま、小く
治せむ。焮腫眼を傳ふハ必焮腫眼を患一切皆然もの小く。病百
種あるハ毒も百種。千萬種あるハ毒もまた千萬種小く。同の
らさること。草木の種子の各異ふごとく。草木の種子を土地を
得て蕃茂。病の種子を人の體小植る發生こと。其理相同。あるの
みからば。凡一切萬物各種各異小く。天地の間小一と一とく同
ものあるの理を推ハ。尤明々易ことあらばや。然を萬病一毒と
いふ説を唱たる醫師ありくより爾來。其言の弊小よりて。妄意
小人を誤徒今の世小多けむ。俗家小も審辨あるべきことなる

り。又人身の衆理を具す。萬事小應むることを明小せば。内外こ
とく患く遺ところを病む。一生の間小一患く。再感もの小
あらぬこと。自知るべきなり。其尤顯著して知易ものハ豆瘡。麻
疹の類あり。微毒のごとも根治さるの後ハ。いゝある癩毒お
る男女小會と雖。決しく傳染もの小あらむ。俗小のさをかさぬ
さたるといふもことあり。其再患ものあるも。根治さるハ故を
正。傷寒などの初惡寒發熱より。腹滿直視。舌胎黃黑。譫語等小を
正しく治し得たるの後も。必再患ことをあるものあり。たとへ類
似たる證ありとも。曩小病とさす比校さば。病因異ハ故小。證候
決しく同あらむ。ことら車小至るも。微細小意を注ささば。其

理を明アキマるニたく信シンじ難カタけさば。其急勢カンヤクあらぬことトも悉シトクも語コトを。世
人深理フシキミを解ゲし得エじとも。唯一切ツツの病ヤムを傳ツル化カべさるものぞと記キ得
る後も。之を避ヨクべさことを慮モロカクべさことあり。

看病人の意得をこく

看病といふこと。槩エカキ小病者の飲イン啖タン坐ザ卧ワの介カイ抱ボウと。藥ヤクを服クしむ
ることのこをいふコトなららむ。是コレ小三等サンあり。先マツ其第一ダイといふ
る。病の萌モウを塞フセこと也。そを何ナニといふコト。凡人何ナニ小くも至コトニ慮カウて
抑鬱キウツク經キョウ久キウけさば。血脈ケツの運輸カウヒ艱ケン澁セツハ故小。顔色カウシキ青黯アヲサメ昏冒ウツラク敗意キタシ其
知見チケン悉シトク依違イツイ精神コン蘊結ウンケツ小從ツレく元陽ゲンキの循環メダリ怠慢ニブクありゆき。軀殼クウカク平
素小比ソコヒハヤ、冷ヒヤことを知チこの悒鬱ウツク起原モトと爲ナるものも。悲傷カサレ恐怖モノノチ

愛著戀慕の思念發動カハユイコヒレイ歇ヤミたさ小由ヨレあり。旁觀者速其情を察知サツシべ。いコノのコノ小も意を致辭シキコトを軟ツクシく慰諭ナゲメサトシその蘊結ムスボルモノの排遣ハレユクやう小をべきことあり。もシカラ然シて鬱悒キフフクタイ日久ヒサシク夜眠チナリを妨サマシ小至イタは心識漸小減耗昏闇運輸消化キレナイの機ワケを失ユレセダシク逐次ハラノウキ小腹裏小癥塊カタマリを結成ヂカスる。或ナラニち勞瘵ラクシヤウのやうある病發オコルる。又ナラニち癩疾カンシヤウとも爲ナリ狂氣キキガヒをも發ハツし。百態イロクノの病小變成ヘンシユキく。遂ツヒ小アヤウキカタち危険イタシ小至イタものあり。如此類カ、ルルを必其初オシメと輕視ホウシべホウシ小あらば。兎角トカク小喜ヨロビも怒イカリも。とタメ色タメを爲ナメ小每夜睡眠マイヨを妨サマシことありといナニた。必後カナズノチ小害ガイあるものを用意コ、ロエく。疾回ハヤレウキ心をべきことあり。又何ナニの故ワケもウレヒカレシモノニホなく。憂悲恐怖ウレヒカレシモノニホ沈思シノヒカケ望慮アヒヒ。或キヨニムクテち暴怒ヒキガチ虧心クシの素小異ツキたる状ヤクからば。癩證カンシヤウキキガヒ狂亂キヤウランの漸シタシあり。又イカリウラシ瞋恨チンコンること久ヒサシけ

色シキバ。氣逆キサカシ故ユ小。周身サウジ懸引ケンインく。頭中カシラウチ熱ネツ一ヒト面色カホノイロ赤ベニ又スギち筋惕肉瞤スギキョウニクミンもスギあり。怒氣イカリを神氣タマシを壓迫オレセムものタマシ色シキバ。甚タシきと死シち卒厥シケンテて僵カタることあり。故ユ小ハラタラシ汗アサ小熱中ネツナカやオとくセ小いオふかんオちやくオもオちといふ類ルキも。癩疾カンシヤウ瘰癧レイゲイ病ヤク狂氣キキガヒ勞瘵ラクシヤウをヤス小アヒあり易オく。或ツキち素小眩運メマヒ頭痛ズツウをクレヒと患トシヨリ。又ツツキクアクち年老トシヨリ卒ソツ瘵チクアクをオ小オありやオと。又タシ逸樂タシの度ホド小過スギ酒色サケイロ小耽オチリ。或ヒルイチち晝寢ヒルイチ通霄ヨモスカラ睡チナリむ。或ヨモモノち讀書ヨミモノ伎藝ゲイジヤウの爲タメ小精コン神キを勞ツラシこと。その人の量コトシヤウ小過スギるオと。皆制ミナぎんイシメバあるべオらば。志シのオハあオとオも學問ガクモン伎藝ゲイジヤウの爲タメ小意識コンキを勞動ツカフこと。憂愁ウレヒイカサ酒色イロの爲タメ小身體カラダを損害ソコシなどの害ガイをオさオものオ色シキバ。強シビく禁戒キンゲイ小もオかオよオむオべオことオらオ其人ソノ小從ヨリ簡裁カンサイあるオさオことオあり。ことオら

皆疾の漸シざる小防スべきといふあり。其第二といふる。既ス小病ヤあ
るものち。其病の由ヨく來キところを考速カ小高手シの醫師イ小診察シを
乞クをさあり。病ヤち初ハの處置テ適トけよ。十シ七八ハを劇ハ甚シ小至シど
く治ヂをるものあり。其梗槩コといと。微毒サの初下ハ疝瘡サより患ム
の。肥前瘡ヒの先指掌テ小五六イ顆發キて。外ウ小瘰癧カところをさるもの。傷
寒カの表證ヤ小發汗ア法フのごとくク愈イもの。吐血ト下血ケの速止ハべ
もの。將狂キまへるた小夜寢ヨるぬるものを。施治テく睡オめく可キ
の。昏睡病コの過小覺スをべきもの。卒癇ソの漸シ自己ジ小悟リ其御シ
爲ナべきもの。婦人崩漏フの藥ク小効カを術ジュ小託ヨく治イべきもの。痢
病ビの初發シ溏瀉タの期小汗アく速効スあるもの。己小裏急シ後重ハ劇シ

至シたるち。馱ハ下カく宜コもの。霍亂クの吐下ハをさへ。過小吐下ハむべき
もの。また吐瀉ハ甚シ早小止ト補ホをあらぬもの。大小便ベの不利リより
病ヤを發ハをることある小意コを注モべきもの。妊娠産後クの諸患シの藥
の効リを託ト。手術カを治ヂせぬもの。金刃傷キの血チを迅疾ク小止ム
べきもの。打撲ウの瘀血ケを急卒サ小瀉モ去サべきもの。閃挫クたる骨節ホも。
腫出ハさる先小快捷テ其治レを爲ナべきもの。痢狗咬傷イ其他サ一切サイの走
獸モ惡ド蟲ク小吠螫ウたる。即時ソ小其毒ドを去サ。後ノ害ガイを決ケく。あは
もの。小兒コの吐乳チの輕忽ユ小をらぬもの。蚊蟲クの腔裏ハ小生シトたる
候キある。大人小兒オ小拘カ。疾其蟲ムを下カさ。蕃息ハ患害シを爲ナ
の。母者ハ乳媪ウの病ヤを乳チより轉輸ツて。兒コの患ムを發ハをる。其兒コ

至も早母及乳媪の疾苦を治べきもの。如此類多方あるは。其初起小意を致て。治術肯綮小中とす。速小害を遁ることあるは。此小縷舉のたし。もいか、る病の大患小至と過小治ををさ。て醫の奇勲を慮ねども。この酌用を醫者の大小巧拙あること小く。俗家の尤知たさることあるらも。誠實の志深技術小意を用ることの無漏醫士小。直之を諮ぐ。必其過失あるものあり。迎意取容ある醫人々。此間小く隠効を收ことを欲さるもの。自己も意向さす。其機を失。暗小後の害を釀こと多けども。この文縷華説。木小竹を接たる醫按を壹信用し。體を損らるることを知ざる。嘆息ことの極あらばや。第三等の病勢既小

進む。氣力衰耗。飲啖も減。坐卧小人の技を頼もの。薬の力を待べきこと固然あるは。も。者侍者の用意の可と否と小く懸小隔のあることあり。醫者三分者病七分と諺小く言習ども。者護をよく領知たる人々少小く。無小く如さるもの多。故如何とあるは。食事小く與べき時あり。薬小く用べき度あり。頻薬を服し。め。強く食を與る。病者の腹力を小耐むたく。薬も食も泥滞。下降がたさ。故小。皆適害とあるとも。効あることあるは。さなり。薬も味の偏たるもの小く。平素無病の人といへども。腹力弛弱もの多。服るる食事まぐも進難くあるものあるを。今病苦あり。腸胃の運轉も常小異は。偏味の薬其度を過てら。

妨あること能は。故小薬と食事と混一からぬやう。水飲も心
く嚙しめ。其腹裏小空隙ありと知こた小薬を服しむを。薬氣
を周身小轉輸く効を奏ものなす。腹中小餘裕あることなから
祢ハ。腸胃より遍體へ普達力ある故小絶く効あるもの小あら
ば。又惣て食事を病人の分量より少殺たることよし。病人も
もと生熟藏の機動違常く。飲啖味を失ものなす。これを強
與て程度を過さば。めの利する曰小敷を多容く。屑せんことを
おごとく。停滞く害とあること必なり。況薬を服しめく間ある
小食を與湯水と喫しや否や湯液を用んとをること。假令平和
壯健の漢ありとも。いゝるぐり之小耐ん。况病者の精力虚耗たる

ものをや。然と薬とだ小いへ。多服く宜ものと思動ハ別煎無
用の丸散其員晝夜數十貼小も及もの有ハ何ごとぞや。いゝる
る方劑小くも五七貼と限とをべし。沈痾胃弱もの小ハ三四貼
を過へららど。とをくら用捨をべきものあるを。彼鬻薬士。即中
を唯貼敷を増んがため小薬を多投。病家も強て速愈んと欲
更小貪喫しむ。故小初ら食氣も不有しものも。腸胃小偏味の
薬と多容受て。とを小對抗力の堪ざる故小喫べきものとも
漸小嫌やう小あり也さく。絶く食事を進祢ハ。萎頓より加減を
べしといひく。所措をみさば。浸著芋の尤泥滯易き品を饒多配
合たるを。又更小喫しむまば。腸胃の轉化遲慢あり。宿飲粘痰胸

腹ハツ小コ充チウ滿マン。機ク關クワン頑ニ鈍クあるを故コ。皮カ肉ニクを漸シ小コ羸レイ瘦シュ。元ゲン氣キ益マ虚ク疲ヒ也ヤ。遂ツ小コ不フ治ヂの病ヤを鑿イ者ニヤを厚オホク顔カホ小コ初ハジメよりかくあるを。遂ツ小コ慮オモヒぬまば。專モツラ滋オキ補オヒの劑クスリを投アゲ小コ。治オホクぬる天命メイありといひ。病ビヤウ家カも韓ハン漫マン諸シヨ品ヒンの高タカ價カネをも畜オホク多オホク服クモモ力チカラを盡ツクシする功カミをさる。死シぬべき定オホク命カフあらんをといひ。遂ツ小コ其ハジメ初ハジメの處テ置アテの失マシ錯ガヒたることをさらく悟サトルものあるを。何ナニ小コも定サダメする天テン數スウ小コ由ユルこと小コあるべけまとも。さしあさり患ビヤウ人ニンの爲タメ小コハまの哀キンドク憐レナあること小コ慮オモヒる也ヤ。俗ロク人トのこともかくも鑿イと業ゲフとをものか此コノ用ヨウ意イもあく。徒イタダ小コ病ビヤウ者シヤを苦クル惱レマむるを小コごととぞや。其ソノ心シン貪ヨクフ婪カキ小コあらば蒙モウ昧マクあり。かゝる鑿イの藥クスリを用ヨウんより藥クスリせむく中チウ鑿イと

得ウル小コ若シカく。こま襪キタウ法ホフ秘ヒ符フの驗ケンありと執オモヒも是コノ故コトあり。又マタ其次ジキ小コ識チ得ウルべきも季キ候コウの寒サム暄サマをも別ワケむ。炎エン燠ウツクの時トキ小コも裱フスマ隔マヒ屏ビヤウ風フウ閉カタつら。祿リク尊ソンと重オホ食シヤクと厚オホク。病ビヤウ者シヤ暑アツク熱ネヒ小コ困クルシ苦クて汗アセ多オホク洩イダとみく。汗アセ多オホクもの風フウ小コ中チウことを禁イムと鑿イ者ニヤの説イヒつまば。いゝさま小コも風フウ小コ觸アヒるありの正マサあんこ。廁モツシへ登ユカルる病人ビヤウをも強レヒく葶シヤク上ウヘ小コも虎コ子シを用ヨウく。便レヒせしめ。飲タベ食シヤクも湯セン藥ヤクも温アツク熱ネヒ物モノをのほるく進スミく。内ウチ外ソトより熱アツクをそふまば。衰オドロ弱ロハたる病人ビヤウのいゝぐら。是コレ小コ堪タヘ忍シユべき。今イマ無ム病ビヤウあるものをしき。試コトヒ小コ數オホク日ヒの、る状態アリサマを爲ナシめてくるべし。いゝある健タカシ夫トありとも。病ビヤウ苦クの發アゲぬことやあるべき。いと愚オロカ昧カるる所レワ爲サらばや。然シカシバ世セ間ケンの大オホク病ビヤウも。十ジュウ七シチ八ハチも皆オホク鑿イ者ニヤと病ビヤウ家カの用ヨウ意イ

あしくて。不治の證シヨクもたつるあり。凡常オヨソツチも忍コラエらるゝことも病ヤミありて堪タカふべきものあるは。其氣ソノキ候ヒコウも應オウじ。病人の體カラダも適カタやうソノソバ。其側アルカニも在ヤウニ病コロヨキ人も爽コロヨキ快コロヨキやで。患者も可ヨキものあり。病人あるは。こゝ頻ヒタヒタ温アツク暖アツクて良ヨキものと思オモへ。愚昧オロカあることあり。かくも其平素ソノツチも背ソムたるも必カナラ害ガイあり。貴賤タラトモ貧富イヤシキモ其分ソノホドも從ヨリく。病者ビヤウニの處置テアテも異カハとも。唯タツソノ其身ミも習ナレ慣キタルま、あるを佳ヨシき。近屬チカキ或アル僻邑カシノカにて。丐コシキ嫗ハハの痘ハハ兒コの灌膿ホンカミの肯ココあるを負ツレく。村里サトも食シヨクを乞コヒふ。一ト富豪オモヒ之ヲを視ミて。憐愍アハレあること。小思オモヒ。竈カマド屢バツヤの旁カタも子コ舎ヤのあり。小入コりぬ。飯イヒふと與アタヘ。醫イを招ヨシキく。藥クスリを服マぐ。痘ハハの收カセルまで。此コノ居オキるをイトチせん。こゝ懇切イトチシロあるを。丐カタキ嫗ハハも嬉ヨロビてあり。其夜ヤ中チも。

さしも盛ミト小膿ウミたる痘ハハ忽ニガも没カチて。苦悶クモンも驚オドロキ躁ソウ。醫イを乞コヒて診ミせしむ。此コノ醫イ師シや、僥コノロキ利キあるもの。小やありけん。是コレも全寒マン風フウ霜シユウ雪ユキをも避イダき。慣ナレき。さりもの。卒ニガ小室イノチ中チも鬱閉コモリする。故ユエも。如カ茲ル變證ヘンシヨクも發イデたる。試コト小露ロ地ガへ出イか。さくさくするべし。こいひ。夜中ヤチも小戸ツト外トへ藁ワラ葎ゴモを延ヒキく。乞コヒ子の母オヤ子コを出イ居オキ。さく詰ヨアケ且ケて。みまは。豆マメ瘡サウ再マタ快クハク發ハツ。膿ウミも十分コト小灌ソク。ときより微イサの惱ナヤミもあ。收カセ醫イたりと聞キり。是コレも常ソノツチも背ソムて。初ハジメの變證ヘンシヨクも發イデする。あるは。これら。こゝも病ヤミあるは。こゝ蒼卒ニハカも其素習ソノツチも異カハたる。宜ヨシら。ぬ理ワケをも推知オモヒべし。又マタ富貴フウキの家イヘも同オチ理リも。春ル冬フユあどの凄シユウ寒サムシあるは。病者ビヤウニの居室キマの氣キの鬱閉コモリする。宜ヨシらぬ。をり。

とりも室隅の裨隔を半開て。濁氣を洩清氣を納やうふくくよ
し。况春の季の暄ある。又も夏秋の暑小。風の徹ぬ處小病者を卧
しめても。いゝるぐり害のあるべき。日脚のふくくさくいるこ
ころあご尤佳あらば。蚊蠅あごを垂るも好らむ。炎熱の時風
あさ日あごも。室裏小扇を揮く病者の枕邊をあふぎても。病者
爽快といえり。不妨ことあり。又四時とも小。隔室多も。患者の寢
所をとりく移たるるよ良とをいゝふといえり。人の天地の
氣を吸呼く生養ことも。あふ魚の水中小在がごご死もの小く。
吸氣も自然小體を榮育べき生氣を含有く腹中小入呼氣も其
塗濁を吐出し。氣息小從く生活運爲あり。其動く音あるものを

風といひ。静小く聲あさものを氣とよぶこと。猶水と波との
ごとく小く。一切萬物の體を成用を爲もの悉皆此氣の榮養
小由さるものあり。但し呼氣ハ生活小用あさ塗濁を去る。無病
者の吐出ものと雖。再吸小善あらば。况病者の氣血の運輸其常
小失。腸胃小穢液充滿く。呼吸の臭氣嗅小忍ば。然を其汚氣を室
裏小充塞しめり。病者其間小吸呼さるべきも。病毒増進也さて。
治さべき期を失のる。輕ハ重重ハ必死小到んこと。又目前を
ること小あらばや。假令ハ口より吐出たる腐穢物を再喫ひ。
盆魚の水を數十日も更さる類小さも似たり。能此道理を發明
く。居室を移とのならぬところ小く。とりく病者の牀蓐を易て。

臥たる傍の裯フスマを放開アケハナシ清スガシ掃除ナゲして。さう後ノチ小故コトのごとく小
移シユべし。諸病シヨビヤリとも小此意用コノコトヲと忌ヌスべのらば。燭火アカリと火爐ヒバチを多室内オホクザレキ
小安オクべのらざ。惣スベて火氣クワキの過カチとること。病者ヤメの為タメ小可ヨロシのらば。甚シ
害ガイあることあり。熱ネツある病者ヤメを昔昔フリク嚴醋キツクス一二合ドナヒを瓷焗シヤク小容イレて。
慢火マンカ上小沸ウケレとの氣キの室中シヤクナカ小充ミルやう小コよよ。醋メを能滯ヨクコキ氣キを
排除ハラヒノダものあり。又病者ヤメの衣衾キルギをとりく新鮮アラタシものを更ナゲしめくよ
一ヒト垢汚ヨコレたる衣服キルモノ臭氣ニホヒのあるものも禁イムこと也。屏風ビヤウをどまぐも
換カのたまをく可ヨシ。看侍者カンシヤリも瘡氣ヂキモノ或チツ熱ネツあるもの。體臭カラダノニホヒ狐腋ウサギの類ルキ
及婦人月信時ツキヤクノトキ若モレク々サンゴ晚後イマダニイラハレモノ未浴者トリアリカヒ或死者シニシを處置トリアリカヒたるま。浴せば
衣服イスクとも更ナゲぬもの、類ルキを制セイをべし。垢穢ヨコレテ異臭アレキニホヒある衣服キルモノを着キて。

看護カンガクをさるるもまよ可ヨロシのらざ。惣スベて病者ヤメを寢室シメドコロと衣衾イムギと。飲食メベモノ
の消息サシヒキ及看侍者カンシヤリの用意ヨウイ小隨ヨリ。病の進退ハヤヒ小大オホ小關係ケガヒあること
をさハ。決ケツしし忽ナホサリ諸小シヨをべきこと小あらば。然シカレバと此患コノヤメ貧賤者ヒンケンモノ小
のオホ多オホく富貴フウキの家イヘ小少スベキことオモを思オモべ。さ小あらば。富貴フウキの家
の臣妾メヒツカヒ他ヒトの毀譽ヒハルを懼身オソシの後患コウオンを厭イヒく。假令タトヘ知非チヒことありて
も。誰タレ發言イヒものもあく。人まへ小のオホ珍敬オウケイを傳語イヒフツレて。炎燠アツサ小も
裯フスマ屏風ビヤウたぐつら祿ナク衣衾イムギいやぶうへ小被キセまゐらせ。絶タニて更衣カヘ
の議サ小及オホ唯ナニゴトモ一切コトガ諺コトバ小謂イフふらざさハららどの看侍者カンシヤリを當務オウゴたり
と裁量サイリヤウて。藥ヤクの煎シユを羹オウギ婢小妾マカセヨウ患狀ウヅカイ牒ナギを飲啖メベモノ前後ノチノヘ渡ワタの記カズレリ子コを
且ナニモカモ每車面ツクシ從ツクシのイヒ小異辭イヒマダラカ。護オガ已マをハりテ。たハ速更直ハヤカガアヒく暇逸ヒマソク

せんと思ふ故^{オモ}の故^{コト}の上^{ウヘ}日^ヒ小^{チホ}何事^{ナニコト}も無らんことを希^{ネガ}の外^{ホカ}他^タ故^{コト}
あり。今の世の縉紳貴族の病者の接^{アヒ}ひ多^{オホク}むかくのごとし。富商^{フクショウ}
大賈^{ダイカウ}もまた此^{コレ}小^{チホ}類^{ルイ}ものあり。故^{ユヘ}小^{チホ}富貴^{フクキ}の家^{イヘ}の病人^{ビョウジン}も卑賤^{ヒイセ}も
劣^{オホ}く。いつも輕^{カキ}も重^{オモク}おもむき漸進^{シヤンジン}く。險證^{ケンシヤウ}をたば必死^{カニシ}ぬること
と思^{オモ}ふ。此^{コレ}弊習^{ヘイシヨウ}ある由^ヨありけり。ま^{カニ}者^{シヤ}病人^{ビョウジン}の用意^{ヨウイ}べきへ
も一^{ヒト}病者^{ビョウシャ}氣鬱^{キウツク}せむ。何^{ナニ}ふても其意^{ソノイ}小^{チホ}適語^{テイゴ}を^シく。病^{ビョウ}のことるを
るべきたけ發語^{ハツゴ}を強^{ツヨク}く心の蘊結^{ウンケツ}ぬやう小^{チホ}。或^{アル}も演劇遊興^{エンゲキユウキョウ}のこ
こ。世間^{セケン}の打諱^{ウチケ}事^{コト}小^{チホ}當^{タウ}くも剛毅義烈^{コウギギリョウ}の談柄^{タンペイ}を尤^{トウ}佳^カ。其間^{ソノマ}ふら
聖賢^{セイケン}の困厄^{コンガク}小^{チホ}處^{トコロ}一^{ヒト}道理^{ダウリ}を述^ノて。病者^{ビョウシャ}小^{チホ}天^{テン}を怨^{ウラミ}人を尤^{トウ}の惑^{マダシ}
あ^{ソレ}ら^レ一^{ヒト}也^{ナリ}。他人^{タニタ}ありとも款罵^{クワンバ}小^{チホ}善愛^{ゼンアイ}者^{シヤ}護^ゴをべきことあり。夫^{ソレ}

人の腔子^{カウダ}も病^{ヤマヒ}の器^{イモノ}をたば。自己^{オノレ}もいつく何^{ナニ}ある疾苦^{ヤマヒ}を得^{ウケ}く。
人の抱撫^{カイボウ}うけんこと預慮^{ヨク}のた^カ。因^{ヨリ}く懿親^{イシン}をさら小^{チホ}もいさむ。
朋友^{トモ}同僚^{ドウリョウ}ありとも。平生^{ヘイゼイ}の交誼^{コウイ}を重^{オモシ}く。病^{ヤマヒ}あること小^{チホ}ををるべ
きたけ小^{チホ}意^イを致^{ツク}すべし。己^{オノレ}の厮役^{シヤク}なりとも。病^{ヤマヒ}をさ小^{チホ}を分憂^{ブンウ}て。毫^{イサカ}
輕視^{コウシ}小^{チホ}せむ。汚穢^{キタナキ}をも厭^{イトハ}むむ。こと小^{チホ}勝^{マシ}する陰陽^{インヤウ}やあるべき。釋^{シヤ}
氏^カの着病^{カシヤク}も八^{フツ}福田^{フツク}之^ノ第一^{ダイイチ}也^{ナリ}と説^{トキ}するも。その慈心^{ジシン}の直^{ソク}小^{チホ}天地^{チノチ}
生成^{セイセイ}の道^{ミチ}小^{チホ}合^カむ。福報^{フクホウ}を得^{ウケ}べき理^{コト}あり。殊病^{トシヤク}者^{シヤ}も晝夜^{シヤヤ}小^{チホ}
從^{コト}或^{アル}も寒熱^{サムネツ}往來^{ウライ}もあむむ。毎時^{マイジ}病者^{ビョウシャ}小^{チホ}問^{トヒ}肌膚^{キフ}を按^{オシ}手脚^{シヤク}を搜^{サウ}寒^{サム}
温^{ユル}を知^シ寤寐^{ソノ}を察^{サツ}。衣衾^{イケン}の厚薄^{コウハク}を審^シ。口舌^{コウシツ}の乾燥^{カンクウ}を候^{コト}湯水^{トウスイ}も適中^{テキチュウ}
小^{チホ}與^ヨ痛痒^{ツウヤウ}のある處^{トコロ}。摩^マも捫^マも癢^{カキ}も^シく。意^{ココロ}小^{チホ}應^{オウ}やう小^{チホ}をべし

又長病人も。手足の重なるも垂たるも。勝小くおさば。とさらま
でも意を加。炎燠小も鬱蒸せぬやう小。寒夜も風の侵ぬやう小。
紙格襪隔の開闔までも。さら小疎脱もあるべららば。最意を注
べさる。飲食の分量と二便の通閉あり。つ小。喫たる物と便下
との多寡を校量。つ小。長病小至く小便の通利少る。尤可あら
ぬことと知得。三つ小。いゝ小食氣なくとも。數日大便の閉も。腹
氣の下降故あることと思。四つ小。大便の色相臭氣の區別。五つ小
る。小便の晝夜の多少色濁といふ中。小も。黄あるあり赤あり。煤
色あると白濁と。塗あると脂と交やうあるあり。臭氣も各異あ
る。唯度數をあり記得。詮をさることあり。醫師もまよこの、

ること織悉問聽ぬら輕脱あり。如茲意を用ふ。着病人の當務を
と。餘事小心の分ぬやう小をべ。病者の旁小あり。倦あり
こと書籍を讀べららば。況突暴をどの類へ嚴禁をべ。就中
父母の病あることさる。君家の務ら是非あり。其他一切家道の事
ありとも。緊要あらむ。其人小委く顧問べららむ。然とも父母
病床小在るら家道の事を挂念小せば。然べることさほどよ
くたのらひ。其心を安らむべ。いゝ小危篤の病ありと
も。父母の心小合ぬ。志を養道小背く不孝也。まよ父母病あり
とも。其病の間あるとりくも。親族の中父母の悦ものを撰て已
小代し。霎時ありとも。寢息く精神を鎮事あることさ小萎頓ぬ

やう小をべし。まゝ奴婢を病者あることさふ。ことさら小勞
て疲ぬやう小使令べし。小過ありとも必罵詈ことある也。たゞ
制べき男女の別あり。姦通より病者の為善のらぬことを牽
連ことあるを。其法令を慢べのらむ。唯慈愛と金銀を以て服使
べし。且病者の為小の費用を厭べのらむ。常の貯蓄も如此時
の為ありと。力の及たけら心を盡べきことあり。又病者の寢室
近く。高聲せしむべのらば。安小笑語をべのらむ。他人の病苦死葬
のこと。無聊ある談を為べのらば。まゝ無用の人と。病者の意小
合ぬ人も。近しむべのらば。若危篤小く醫士も閣手。吾人も治を
べのらざる病と知べ。毎事病者の意小委服小く薬を強用

べのらば。患人の覺悟小從くも。絶て薬を止るも可然と毀譽を
懼。無益の醫を招病者の診察を厭とも顧ざるも何ごこと。も
病者覺悟あしく。死ぬるまざる醫も迎へ。薬も用べし。又覺
悟よろし。のらぬ人も。家人の離別を傷本心を失もの多のらる
人と見べ。必死ぬべきことある告あり。ことさら尤用意あるべ
きことあり。其死期近小ありとみべ。幼兒孫及病者の心小か
る血親も。あるべきたけ會しめざるもよし。苦痛の間も。愛着の
情發べ。死期の妨とあるはあり。臥室をいゝ小も潔淨小して寂
寞あるを良とも。近隣小琴三絃笛鼓あるの音せ。親を人しく
其家小告。且過んことを乞べし。のらる音聲の耳へ入べ。死ぬべ

其時の大なる妨害とあることあるか故あり。今や瞑目あること
あることも。戚屬圍繞く哭泣し可らぬことあり。命絶く後小哭
べし。忍ぶたくく聲を發ものあらば。疾小別室へ遣べし。死期小
親戚の啼哭を聞しむるもの、大なる不孝をなす。此
事々豫より用意く。ゆめく忘失べらば必死ぬべし病者と
一切心の繋引ぬやう小むること。看護人の最切緊に記得べ
し。然るときは臨死の苦痛も自微病者小放る大なる益あること
あり。又至誠の心一あらむ。病者のため小。道釋巫祝の徒小
委く祈禱をなむること。更無益のことあり。この道釋巫祝を輕
薄の者多。唯貪利の爲の祈念神符小何の驗の有べきこと小

天命盡むる者を。何の法ありく。能死を反べき。孔子の丘を禱
こと久と言ありしこととよく思べし。假令天數盡むとも。祈
とも驗あること。驗あること。いのる心小信をけし。の旨を味は却
く神佛の呵護あるまじく。病者の為不利こと小ありぬべし。中
夏コニの古昔。周の武王の病ありし時小。其弟の周公旦吾身を以て
代んと祈誓ありし。忽感應ありき。さしも大漸し。武王の病
の不日小愈たまひし。周公の弟たる道を盡し。且深天下の亂を
憂たまふ。其至誠より出たることあり。まゝ元の太宗皇帝の病
を將小死んとき。其宰相耶律楚材といひし人皇后と相議
て。俄小大赦の令を發さし。囚及官吏の有罪を悉赦免あり

一。其夕太宗の絶たる脉復生く甦たりとぞ。此帝ハ初政を楚材小與といへども其性酒を嗜晩年小至く尤甚く。遂小楚材の諫を容ここ能む。細人小委任。賣官鬻獄辜をさものを囚繫たるもまゝ多。楚材天譴の由く来ところを明小知ぬ故小大赦を行しめたり。其仁愛の天地を感動せしめく。死小垂こしたる太宗の再蘇生あらせしむ。まゝ宜あること小あらむや。今の世諸侯あど其病を巫祝僧侶小委く祈んよりも。寧奢を節殺を禁。囚の刑を輕し。民の征賦を減あどさることを。洪大の仁惠こをさるべけど。然ども是郡國を主宰さる人の上の事小く。士庶ももとよ里企及べさこと小あらはれど。愍く進徳修業を皆己が心小

由く起るもの也。故小常小此心を存をさる。其成功量べのらむ。必しも多生を放貨を施小非を驗あしといふべのらむ。ささども其分小應トく。財あり勢あるものも。とさもまゝ易ことあさる。いの小も吾力の及たける。人の厄を救貧を惠殺を戒生を放の耶律楚材あどこく天地生成の心を心とせば。必定ある天命をも革て。禍を轉ト福を迎。其驗あらんことまゝ必然あり。も一縑の錢一溢の米。老親を養妻帑小給小足む。貧歎いの小も爲べのらざるものも。父兄の病小代人小身を以くさる。かの至誠心。周公の如あらむ。神佛の感應いゝぐのあらざるべき。然どもこのことハ人の尤難とさる。ところあり。而を能爲得小

於オくハ。是コレ彼カノ有力者カウテヨキモノの財キゼンを捨ステるホトシ惠オモテを行ユりも。其シテ驗シを得ウルこと大
小優ミナリぬべし。惣スベて善ゼンを積ツミ徳トクを植カるカ。いハも真マコト實シツ小コして虚ウソ假ハリ
あハきを貴タカシとモとモち。一途イツ小コ孝カウ悌テイ忠チュウ信シンの道ミチを以モつ。赤アカ心ココロ小コ祈イノんコ
と。天地カミホトケ鬼神ホトケの本意ホンイ小コ合カべケし。

病家須知卷之一終



